

令和 2 年版

消 防 年 報



竹田市消防本部

(令和 3 年刊行)

ま え が き

この年報は、竹田市の消防現勢及び令和2年中における火災、救急、救助等の統計データを収録し、当本部の消防行政を広く一般に紹介するとともに消防行政を将来の参考に資するために編纂したものです。

なお、この年報の統計資料の基準日は原則として暦年で、予算に関係ある事項については年度、その他は当該表の右上欄にそれぞれ記載した年月日をもって表してあります。

令和3年6月

竹 田 市 消 防 本 部
消 防 長 志 賀 和 吉

目次

1. 地勢及び情勢	
(1) 竹田市の位置及び地勢	6
(2) 管轄内略図	7
(3) 竹田市の人口世帯数	8
(4) 竹田市の年齢区分別人口	8
(5) 竹田市の地目別面積	8
(6) 新竹田市消防本部の沿革	9 ~ 15
2. 総務	
(1) 竹田市消防本部・消防署の組織	17
(2) 事務分掌	18~21
(3) 職員の配置	22
(4) 職員の年齢構成	23
(5) 職員の勤続年数	24
(6) 職員の条例定数及び階級別実員並びに採用退職状況	25
(7) 消防学校等入校状況	26
(8) 職員の各種資格免許取得状況	27
3. 警防	
(1) 消防機械の配置状況	29
(2) 通信施設	29
(3) 無線局一覧表	29
(4) 無線電話および119番電話回線系統図	30
(5) 車両管理表	31
(6) 救助資機材の保有状況	32
(7) 相互応援協定・支援協定締結状況	33
4. 予防	
(1) 防火対象物の現況	35
(2) 建築同意件数	36
(3) 消防用設備等点検結果報告提出対象物	37
(4) 防火管理者講習会実施状況	38
(5) 民間防火クラブ結成状況	39
(6) 危険物製造所等の状況	40
(7) 防火標語の変遷	41
5. 災害統計	
(1) 火災概要	43~44
(2) 救急概要	45~49
(3) 救助概要	50
6. 消防団	
(1) 竹田市消防団組織図	52
(2) 消防団の構成	53
(3) 消防団の消防機械配置状況	53
(4) 消防団の団員報酬	53
(5) 年齢別及び階級別消防団員数	54
(6) 歴代消防団長・方面隊長一覧	55
(7) 消防操法大会足跡	56

7. 資料

- (1) 竹田市長および副市長・・・・・・・・・・ 58
- (2) 竹田市議会議長および副議長・・・・・・・・ 58
- (3) 竹田市消防本部・署 歴代消防長・消防署長・・・・ 59

1. 地勢及び情勢



1. (1) 竹田市の位置及び地勢

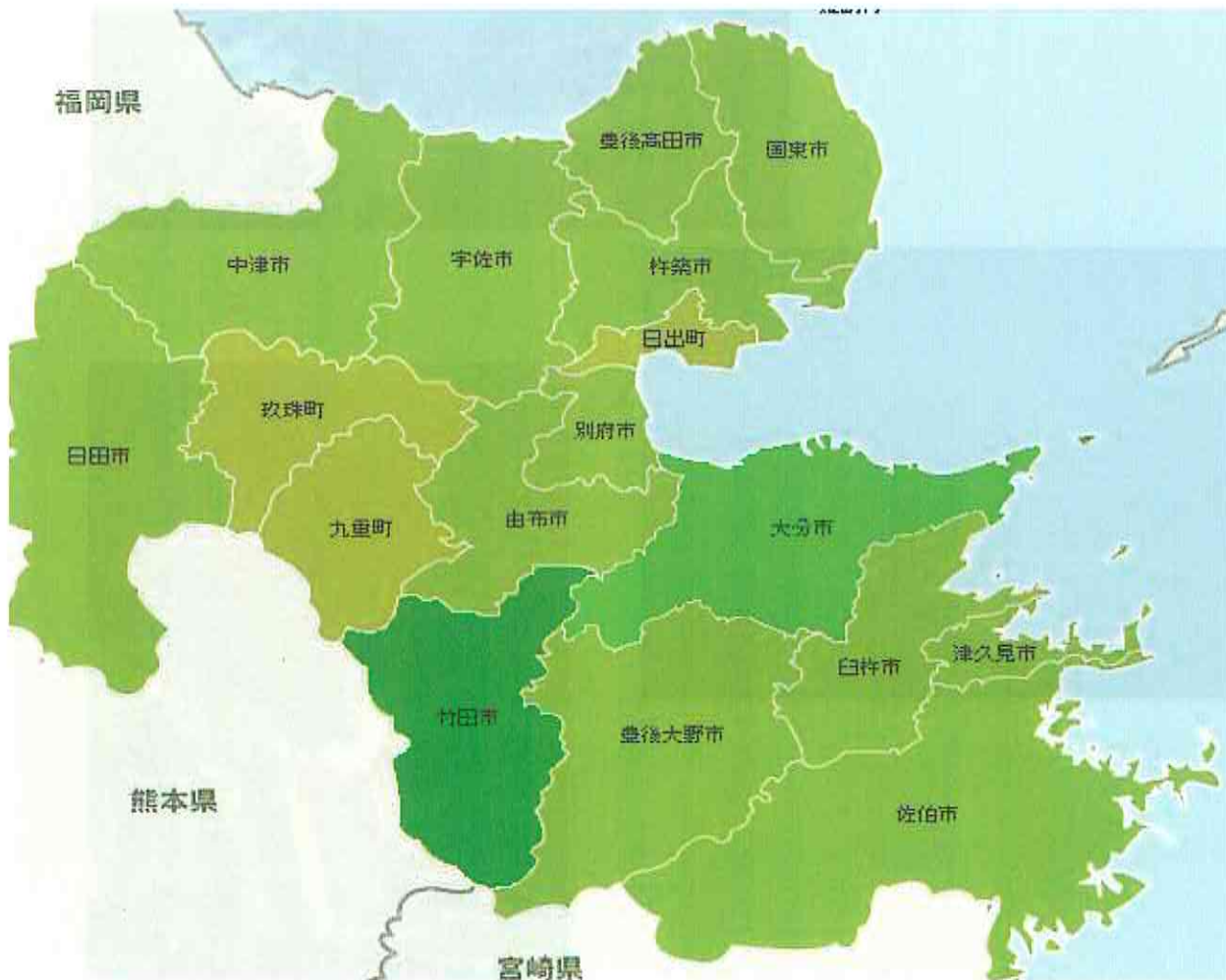
管内は、大分県の南西部に位置し、熊本県と宮崎県に県境を接している。周囲をくじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母傾連山など九州を代表する山々に囲まれ、大分県一の河川である大野川の源流を有しており、一日に数万トンの湧出量を誇る湧水郡をもつ水と緑があふれる自然豊かな地域である。山々から湧き出る豊かな名水は全国的にも知られ、下流域の多くの人々の生活を支えている。管内では、こうした大自然の恵みを活かした農業や観光が基幹産業となっている。

また、歴史的には奥豊後の中心地として栄え、政治や経済、文化、交通の要衝として発展してきた。そのような時代を物語る岡城跡や武家屋敷等が、今も変わらぬ姿でたたずんでいる。

気候条件は、大分県の大部分が瀬戸内型気候に属しているといわれるものの、管内の地形は起伏に富んでおり、山岳部、高原部、内陸部、盆地などの気候は定型的な気候区にあてはまらない。そのため、管内でも地域によって平均気温に差がある。

降水量については、梅雨の時期と台風の上陸が多い7月から9月に雨量が集中するという特徴がある。

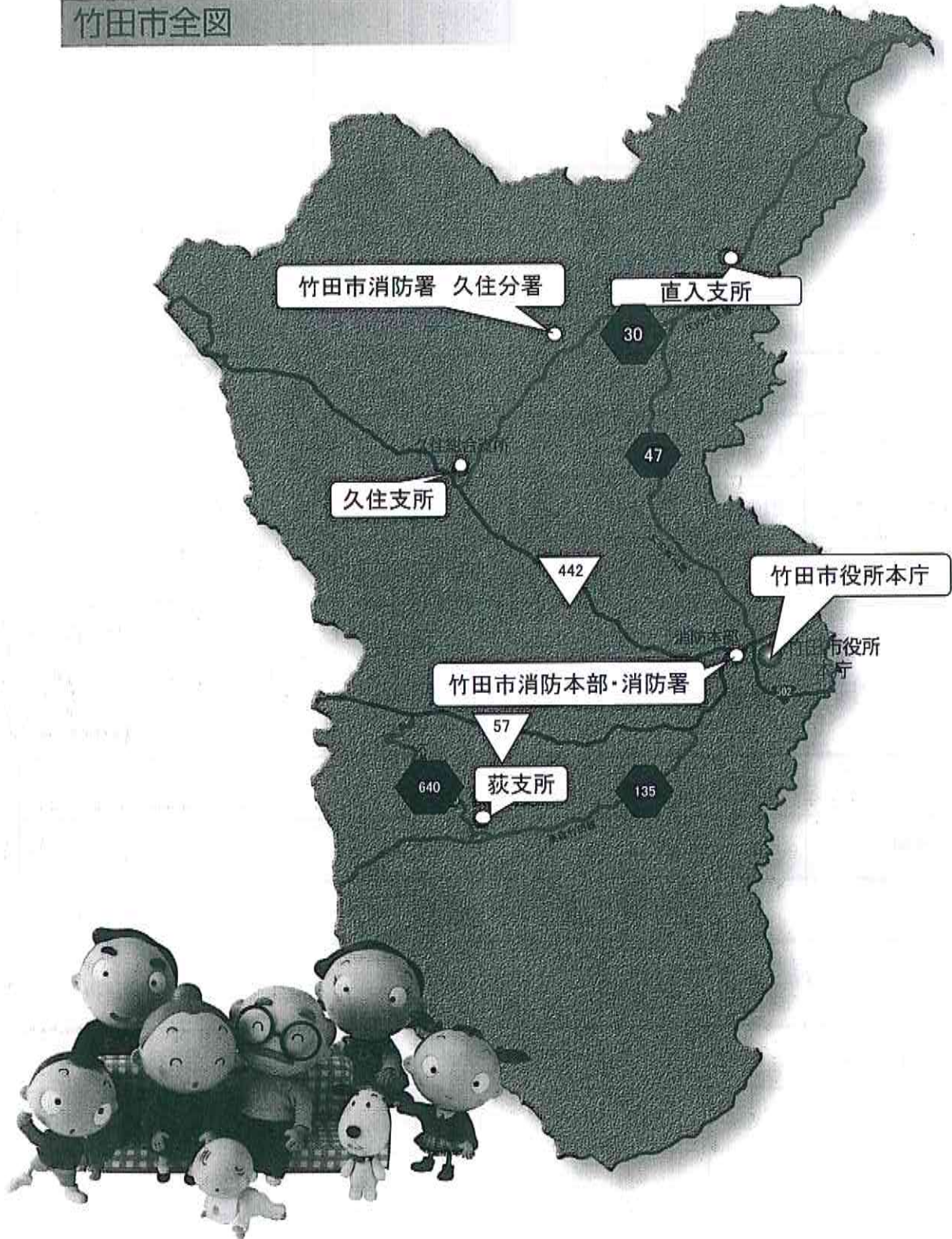
大分県



1.(2)管轄内略図

 竹田市のすがた

竹田市全図



1. (3)竹田市消防本部 管轄内人口世帯数

(単位:人)

区分 市町名	国勢調査人口					
	S45年	S50年	S55年	S60年	H 2年	H 7年
竹田市	27,128	24,203	22,767	21,954	20,164	18,746
荻町	5,155	4,638	4,409	4,167	4,006	3,818
久住町	6,606	5,919	5,538	3,511	5,116	4,850
直入町	3,984	3,599	3,297	3,261	3,112	2,954
計	42,873	38,359	36,011	32,893	32,398	30,368

区分 市町名	国勢調査人口			令和3年 3月31日現在 住民基本台帳	
	H17年	H22年	H27年	人口	世帯数
竹田市	26,534	24,423	22,332	20,694	10,054

1. (4)竹田市の年齢区分別人口

(単位:人)

区分	老人 (65歳以上)	成人 (64~15歳)	少年以下 (14歳以下)
竹田市	9,855	9,058	1,781
(令和3年3月31日現在)	47.62%	43.77%	8.61%

1. (5)竹田市の地目別面積

区分	総面積	田	畑	原野	森林	水面 河川水路	道路
面積	47,753	4,610	2,110	455	33,362	1,374	1,560
割合	100.0%	9.7%	4.4%	1.0%	69.9%	2.9%	3.3%

※割合については四捨五入をしているため、合計が100%にならない場合があります。

1. (6) 竹田市消防本部の沿革

(1) 設立の経過

国は、行政改革の一環として全国の市町村数を3000から1000へ合併推進すべく、「市町村の合併の特例に関する法律」を改正して、平成17年3月末までに合併した団体には有利な条件で一定の財政支援を行うこととした。これに伴い、大分県は平成12年12月15日「大分県市町村合併推進要綱」を定めた。

竹田直入地域においても、この要綱に基づき、平成13年4月25日「竹田直入地域広域行政研究協議会」を設立し、平成14年3月1日には「竹田直入地域合併任意協議会」を設置して合併に関する調査、研究等を重ねた。

平成15年4月1日、合併に関する協議を更に進めるために法定協議会である「竹田直入地域市町合併協議会」が設立をされた。大野郡内の町村合併についても、竹田直入地域と同じような時期にそれぞれの機関が設置され、町村合併が進められた。

普通地方公共団体である市町村合併が進む中、特別地方公共団体である竹田広域消防組合の取り扱いも、平成16年4月20日に開催された「構成市町長会議」から協議されはじめ、同年8月6日開催の「市町長会議」で消防組合を解散して新市に消防本部を設置し、緒方町・朝地町の消防事務（消防団事務及び消防水利事務を除く）については、豊後大野市が竹田広域消防組合から一旦脱退し、竹田市に事務委託することで基本合意した。

(2) 沿革

平成17年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 竹田市、直入郡荻町、同郡久住町及び同郡直入町による新「竹田市」が発足する。このことにより「竹田市消防本部」となる。 豊後大野市（緒方町、朝地町の区域に限る。）の消防・救急事務（消防団及び水利事務を除く。）について、豊後大野市から竹田市へ委託される。 市長部局へ1人出向。（消防職員74人）
4月24日	<ul style="list-style-type: none"> 新竹田市の市長選挙、市議会議員選挙が実施される。 選挙の結果、初代市長に牧 剛尔氏、市議会議員28人が当選した。
5月17日	<ul style="list-style-type: none"> 竹田市久住町の久住滑空場において、グライダー1機が練習飛行中に墜落し乗員2人が死亡する。
5月19日	<ul style="list-style-type: none"> 第1回臨時市議会で議長に児玉誠三氏、副議長に足達寛康氏就任。
6月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 豊後大野市より、市町村合併により緒方町と朝地町の消防・救急事務を委託しているが、平成19年3月末で委託解消をしたい旨の申し入れあり。（臼杵市から同市野津町の豊後大野市への消防・救急事務の委託解消とセットで進めて、1市1本部体制を執りたい方針）
9月 6日	<ul style="list-style-type: none"> 台風14号接近により災害対策本部設置。荻町南河内で民家1戸が土砂災害により流失、女性2人が滝水川に流されて行方不明となる。
9月15日	<ul style="list-style-type: none"> 竹田市菅生の原山において、「不正軽油の製造所」を竹田市消防本部、竹田警察署、大分県竹田県税事務所等と摘発する。
10月18日	<ul style="list-style-type: none"> 消防署と警察署合同で久住山「久住避難小屋」に救護担架を設置。
12月25日	<ul style="list-style-type: none"> 9月6日に発生した台風14号による荻町南河内の土砂災害による行方不明者2人の捜索を行った結果、1人を豊後大野市緒方町の大野川で発見する。
平成18年 1月10日	<ul style="list-style-type: none"> 合併後初の「新竹田市消防特別点検」を竹田市文化会館前で行う。
3月31日	<ul style="list-style-type: none"> 消防職員4人退職（定年退職1人、勸奨退職3人）辞令交付式を行う。 消防署荻分駐所を廃止する。
4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 消防本部次長兼警防課長 白井幸光就任。 第11代消防署長兼庶務課長 見増正幸就任。 消防職員3人採用する。（消防職員73人）
5月 9日	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命士1人増、10人となる。

	6月25日	・合併後初の「竹田市消防操法大会」を開催する。（竹田市文化会館前広場）竹田市代表として「ポンプ車の部、小型ポンプの部とも直入方面隊」に決定する。
	8月20日	・第24回大分県消防操法大会で竹田市消防団はポンプ車の部3位、小型ポンプの部準優勝となる。この大会のアトラクションで、なおいり保育園が「ちびっ子操法」を行う。
	10月2日	・AEDを市役所本庁、各総合支所に配置。本庁で、配置式を行う。
	12月22日	・竹田市と豊後大野市との間における消防および救急業務に関する事務委託の廃止について、竹田市議会において可決される。（豊後大野市議会は12月21日）
平成19年	1月10日	・竹田市消防特別点検、直入総合運動公園で開催される。
	1月22日	・第2代市議会議長に古井久和氏就任。
	3月30日	・消防職員2名定年退職、豊後大野市へ身分移管（15人）に伴う辞令交付式を行う。救急救命士6人となる。
	3月31日	・豊後大野市よりの消防・救急事務の受委託解消により、竹田市消防署緒方分署閉署式を現地にて行う。
	4月1日	・第10代消防長 白井幸光、消防本部次長兼庶務課長 見増正幸、 ・第12代消防署長兼警防課長に真田照幸就任する。 ・消防職員4人採用（消防職員60人）。 ・消防本部の組織機構の一部改正をして、「警防課」と「予防課」を統合して「警防課」にする。
	5月14日	・救急救命士1名増、7人となる。
	5月21日	・救急救命士1名増、8人となる。
	6月1日	・竹田医師会病院が内科医の退職による不足から「救急告示病院」を休止し、管内から救急指定病院がなくなる。
	7月2日	・常備消防の広域化に向けて、大分県消防力強化推進検討協議会、同幹事会、同総務・消防作業部会が設置される。
	7月19日	・阿蘇市との災害時支援協定調印式（阿蘇市役所）を行う。
	8月1日	・国の「緊急臨時的医師派遣システム」に基づいて、竹田医師会病院に日本医科大学付属病院高度救命救急センターから高橋明子医師が派遣され着任する。平成20年1月31日までの6ヶ月間の派遣。
	8月10日	・「竹田ロータリークラブ」から創立50周年記念事業として竹田市にAED（6基）寄贈され、公共施設に配置する。 （消防署、総合社会福祉センター、文化会館、歴史資料館、岡城址）
	9月19日	・竹田市本町「株式会社 あわや」より、AEDトレーナーの寄贈を受ける。
	10月12日 ～13日	・緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練に消火隊1隊、救急隊1隊及び運営補助員の計11人が参加する。（大分県中津市）
	12月28日	・高規格救急車の配車式を消防本部・署車庫内で行い、久住分署に配備する。
平成20年	1月1日	・竹田医師会病院が再び救急告示施設となる。
	1月10日	・竹田市消防特別点検、荻小学校グラウンドで開催される。
	3月7日	・自治体消防制度60周年記念式典。（日本武道館）
	3月31日	・定年退職者1人、勸奨退職者4人退職。
	3月	・大分県消防広域化推進計画が策定される。
	4月1日	・第11代消防長 見増正幸就任する。 ・消防職員5人採用。（消防職員60人）
	5月1日	・医療法人 大久保病院が救急告示施設となる。
	5月7日	・救急救命士1人増、9人となる。

	6月 8日	・平成20年度大分県総合防災訓練を竹田市総合運動公園において実施する。(参加機関29機関、約500人参加)
	6月15日	・平成20年度竹田市消防団消防操法大会を荻町福祉エリアにおいて開催する。竹田市代表として「ポンプ車の部は荻方面隊、小型ポンプの部は久住方面隊」に決定する。
	7月27日	・第25回大分県消防操法大会が開催され、竹田市消防団はポンプ車の部で準優勝、小型ポンプの部で優勝する。この大会のアトラクションで、なおいり保育園が「ちびっ子操法」を行う。
平成21年	1月10日	・竹田市消防特別点検、久住総合運動公園運動場で開催される。
	3月31日	・定年退職者3人退職する。
	4月 1日	・第12代消防長 阿南正治就任する。 ・消防職員2人採用する。(うち救急救命士1人) ・本庁消防団係に出向していた職員を消防本部に異動する。(消防職員61人) ・行財政改革に伴い、本庁消防団事務を消防本部に集約する。
	4月24日	・竹田市の市長選挙、市議会議員選挙が実施され、市長に首藤勝次氏、市議会議員22人が当選する。
	5月12日	・第3回臨時市議会で、議長に荒巻文夫氏、副議長に吉竹悟氏が決まり就任する。
	5月19日	・臨時議会で副市長に渡部英雄氏が決まり就任する。
	5月20日	・救急救命士1人増、10人となる。
	6月 1日	・2004年4月以降、大分大学医学部附属病院から常勤小児医の派遣を受けていた竹田医師会病院小児科が休診となる。
	8月 8日	・毎月1回、熊本大学医学部から小児科医の派遣を受け、竹田医師会病院小児科の診療を再開する。
	8月10日	・台風9号接近に伴う局地的集中豪雨により、片ヶ瀬滑瀬の国道502号沿いで大規模な土砂災害が発生し、信号待ちをしていた車8台が土砂に巻き込まれ13人が負傷する。
	11月 2日	・竹田市立こども診療所が旧大分県竹田保健所に開設される。 ・道路に倒れていた男性に心肺蘇生法を行い救命、竹田医師会病院看護師女性3名に対し感謝状を贈る。
	12月28日	・心肺蘇生法を行い救命した竹田市社会福祉協議会荻支所職員に感謝状を贈る。
平成22年	1月10日	・竹田市消防特別点検、旧竹田中学校グラウンドで開催される。
	2月 3日	・日本損害保険協会から軽消防自動車(4人乗り、B2級小型ポンプ積載)が贈られ消防団に配備される。
	2月 4日	・本署高規格救急車を更新し、配車式を行う。
	3月31日	・定年退職者2人、勸奨退職者1名退職。(うち救急救命士1人)
	4月 1日	・第13代消防長、工藤克美就任する。 ・消防職員3人採用する。(うち救命士2人) (消防職員61人)
	5月17日	・救急救命士1人増、13名となる。
	6月22日	・平成22年度竹田市消防操法大会を直入コミュニティーセンター前広場において開催する。竹田市代表として「ポンプ車の部は荻方面隊、小型ポンプの部は久住方面隊」に決定する。
	8月22日	・第26回大分県消防操法大会が開催され、竹田市消防団はポンプ車の部、小型ポンプの部においてダブル優勝し、小型ポンプの部優勝の久住方面隊は全国大会へ。
	8月25日	・全国消防救助技術指導会、陸上の部、ロープ応用登はん(2名)に出場し入賞を果たす。(京都府)

	10月26日	・防火広報車を更新する。
	11月12日	・全国消防操法大会（小型ポンプの部）に竹田市消防団久住方面隊第1分団第2部が出場する。
平成23年	1月10日	・竹田市消防特別点検、直入総合グラウンドで開催される。
	1月14日	・第1回臨時会の議決により、議長に加藤正義氏が就任する。
	1月17日	・大分大学医学部附属病院と救急救命士の再教育実施機関として提携を結ぶ。
	3月11日	・東日本大震災（14時46分、M9.0 日本観測史上最大）発生。
	3月14日	・緊急消防援助隊の要請出場要請を受け、被災地に対する救援のため、ポンプ車及び隊員5人を派遣。岩手県石巻市にて活動を行った。（3月22日帰署）
	3月31日	・定年退職者3名退職。
	4月1日	・第14代消防長 児玉淳一就任する。 ・消防職員3人採用する。（うち救命士1人） （消防職員61人）
	9月6日	・デジタル無線基本設計完成。
	10月3日	・SPA直入、大規模訓練実施。
	11月3日	・吉野清元消防長、危険業務従事者叙勲受章。
	12月5日	・消防自動車更新、久住分署配備。
	12月19日	・防火衣盗難被害。
平成24年	1月9日	・竹田市消防特別点検、荻小学校で開催される。
	2月20日	・消防団員意見発表会、全国大会出場。
	3月5日	・庁舎建設用地取得。923.87㎡。（古澤輝子所有）
	3月15日	・新消防庁舎建設基本設計業務完了。
	3月31日	・定年退職者2名退職。
	4月1日	・消防職員3人採用する。 ・大分県防災航空隊に1名派遣 大塚省吾消防副士長。
	4月22日	・救急救命士1人増、16人となる。
	5月30日	・白井幸光元消防長、危険業務従事者叙勲受章。
	6月24日	・平成24年度竹田市消防操法大会を竹田文化会館駐車場において開催する。竹田市代表として「ポンプの部は直入方面隊、小型ポンプの部は久住方面隊」に決定する。
	7月12日	・九州北部豪雨発生。竹田市大字拝田原で氾濫した玉来川の濁流に流され1名死亡。また荻町南河内では土砂災害により1名行方不明となる。
	7月15日	・11時20分、大分市下戸次大野川で身元不明者発見。19時12分、荻町南河内の行方不明者と確認。（1名死亡） （豪雨による死者2名、負傷者3名）
	8月7日	・全国消防救助技術指導会、陸上の部、ロープ渡過（1名）、はしご登はん（1名）に出場し入賞を果たす。（東京都）
	8月26日	・第27回大分県消防操法大会が開催され、竹田市消防団はポンプ車の部、小型ポンプの部においてダブル準優勝する。
平成25年	1月20日	・竹田市消防特別点検（県モデル点検）、竹田市総合運動公園で開催される。
	3月15日	・竹田市新消防庁舎起工式。
	3月31日	・定年退職者3名、勸奨退職者2名退職。
	4月1日	・第15代消防長 後藤清就任。

	<ul style="list-style-type: none"> ・消防職員 5 人採用（うち救急救命士 1 名）
4月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士 2 人増、19 人となる。
5月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・竹田市消防本部退職者会設立。
8月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・大分川・大野川水防演習（消防団） ・全国消防救助技術指導会、応用登はん（2名）に出場し入賞を果たす。（広島市）
11月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団 120 周年、自治体消防 65 周年記念大会。（東京ドーム）
11月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・消防救急デジタル無線実施設計業務完了。
平成26年 1月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・竹田市消防本部新庁舎事務棟業務開始。（緊急通報指令システム導入）
3月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・定年退職者 1 名、早期退職者 1 名退職。（うち救急救命士 1 名） ・救急救命士 1 人増、19 人となる。
4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ・消防職員 2 名採用。
6月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度竹田市消防操法大会が開催され、竹田市代表としてポンプ車の部、小型ポンプの部ともに直入方面隊に決定する。
8月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・第 27 回大分県消防操法大会が開催され、竹田市消防団はポンプ車の部が準優勝、小型ポンプの部が優勝し全国大会の出場が決定した。
11月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・全国消防操法大会（小型ポンプの部）に竹田市消防団直入方面隊が出場する。
11月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度大分県消防大会が竹田市久住公民館にて開催。
12月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署車庫、屋内訓練場部分が完成し、竹田市消防本部消防署新庁舎落成式が行われる。
平成27年 3月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・定年退職者 1 名、早期退職者 2 名退職。 ・救急救命士 1 名増。20 名となる。
4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ・第 16 代消防長 大塚義徳就任。 ・消防職員 1 名採用、救急救命士 1 名増、21 名となる。
4月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・旧救助工作車の老朽化に伴う救助工作車更新事業開始。
11月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・救助工作車更新による安全祈願、清めの儀式を本署車庫にてとりおこなわれる。
12月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ・新救助工作車運用開始。
12月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・早期退職者 1 名退職。
平成28年 3月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・定年退職者 3 名、早期退職者 2 名退職。 ・第 17 代消防長 釘宮恒憲就任。 ・救急救命士 1 名増、22 名となる。
4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ・消防職員 2 名採用、救急救命士 1 名増、23 名となる。
4月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本大分地震（21時26分、M6.5 前震）が発生。 ・緊急消防援助隊の出場要請を受け、被災地に対する救援のため、ポンプ車及び隊員 5 人を派遣。（帰署 4 月 16 日）
4月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本大分地震（1時25分 M7.3 本震）が発生。管内では震度 5 強を観測。
10月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇山の爆発的噴火。管内への降灰による農作物被害の発生。
平成29年 1月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・竹田市消防出初式。（雨天の為、会場変更：竹田市総合社会福祉センター多目的ホールにて実施）
3月 31日	<ul style="list-style-type: none"> ・退職者 1 名。 ・救急救命士 1 名増、24 名となる。
4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ・第 18 代消防長 工藤忠孝就任。 ・消防職員 2 名採用、救急救命士 1 名増、25 名となる。
5月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・豊後大野市朝地町綿田地区にて地すべり発生。

	7月 5日	・九州北部豪雨発生。自衛隊並びに緊急消防援助隊の要請を行う。
	7月 6日	・日田市の土砂災害で消防団員が1名死亡。
	8月23日	・第46回全国消防救助技術大会、ロープブリッジ渡過（1名）、梯子登はん（1名）に出場し入賞を果たす。（宮城県）
	9月16日	・台風18号に伴う県南部を中心とした災害発生。
	12月18日	・救急車更新（竹消防急2）
平成30年	3月31日	・退職者2名。 ・救急救命士1名増、26名となる。
	4月 1日	・第19代消防長 大塚正三就任する。 ・消防職員1名採用。 ・大分県防災航空隊に1名派遣 田部智康消防副士長。
	4月11日	・中津市耶馬溪町金吉地区 山地崩壊災害。
	7月	・平成30年7月豪雨。 6月28日以降の記録的な大雨について、気象庁が「平成30年7月豪雨」と定めた。
	8月10日	・群馬県消防防災ヘリコプター墜落事故。
	9月 6日	・平成30年北海道胆振東部地震（3時7分、M6.7、最大震度7）発生。
	10月 7日	・竹田市総合文化ホール グランツたけたオープン。
	10月25日	・救急車更新。（竹消防急1）
	11月25日	・平成30年度大分県豊肥地区総合防災訓練。
平成31年	1月19日	・中九州道路 竹田～朝地区間が開通。
	3月31日	・救急救命士1名増、27名となる。
	4月1日	・消防職員1名採用
	4月22日	・新竹田こども診療所が開院
	4月30日	・天皇退位の日
令和元年	5月1日	・天皇即位の日 年号が「平成」から「令和」へ
令和元年	10月31日	・沖縄県那覇市首里城火災
令和2年	1月	・新型コロナウイルスを日本で初確認
	3月3日	・大分県で新型コロナウイルスの初の感染者を確認
	3月23日	・消防車更新（竹消3、タンク車）
	3月31日	・退職者3名（うち早期退職1名） ・救急救命士1名合格（エルスタ九州にて最優秀賞）、増減なし。
	4月1日	・第20代消防長 志賀 和吉就任する。 ・消防職員2名採用、会計年度任用職員採用1名。
	4月7日	・竹田市にて新型コロナウイルス確認
	4月16日	・新型コロナウイルスの感染拡大を受け、全国に「緊急事態宣言」発令
	5月14日	・大分県を含む39県で「緊急事態宣言」を解除。
	5月25日	・北海道、東京、神奈川、埼玉、千葉の5県の「緊急事態宣言」を解除
	7月	・令和2年7月豪雨が発生。7月5日に緊急消防援助隊の出動要請を受け、隊員5名派遣。
	7月8日	・台風10号に伴い、直入町で家屋倒壊が発生。 救助隊により傷病者2名を無事救助

8月28日	・安倍晋三首相が辞任を表明。
9月16日	・菅義偉氏が第99代内閣総理大臣となる。
令和3年1月8日	・2度目の緊急事態宣言を1都3県に発令
2月	・日本で新型コロナウイルスワクチン接種が開始される。
3月15日	・ポンプ車（竹消2）更新
4月25日	・3度目の緊急事態宣言を4都府県に発令
5月6日	・大分県での新型コロナウイルス感染者数が急激に増加し、 ステージ3（人口10万人あたりの感染者数）へ移行した。
5月12日	・3度目となる緊急事態宣言に愛知県、福岡県を加えた6都府県へ拡大。

2. 総 務



2. (1) 消防予算

(1) 一般会計予算と消防予算

(単位：円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一般会計予算	23,244,491,000	21,245,540,000	20,331,920,000	20,572,876,000	18,383,480,000
消防費予算	663,567,901	675,050,000	706,631,000	697,685,000	595,387,000
一般会計予算と 消防費予算との 割合	2.9%	3.2%	3.5%	3.4%	3.2%

※令和元年度、令和2年度は当初予算となります。

(2) 消防費の内訳

(単位：円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常備消防費	438,503,000	439,553,000	467,328,000	450,428,000	444,178,000
非常備消防費	126,707,000	114,263,000	100,523,000	114,585,000	105,291,000
施設費	76,750,000	85,165,000	111,676,000	106,939,000	25,540,000
水防費	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
防災対策費	21,527,901	35,989,000	27,024,000	25,653,000	20,298,000
合計	663,567,901	675,050,000	706,631,000	697,685,000	595,387,000

※令和元年度、令和2年度は当初予算となります。

(3) 人口・世帯当たりの消防費

(単位：円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人口1人当 たりの消防費	29,282	30,393	32,648	32,961	28,128
1世帯当 たりの消防費	63,848	65,191	69,250	68,955	58,844

※令和元年度、令和2年度は当初予算となります。

※人口・世帯は各年の3月31日現在の数です。

2. (3) 事務分掌

(1) 総務課

ア 庶務係

- (ア) 消防に係る規約、条例、規則及び規定等の立案制定並びに改廃に関する事項
- (イ) 消防に係る表彰、式典、儀礼及び交際に関する事項
- (ウ) 消防に係る公印の保管に関する事項
- (ニ) 消防に係る文書の收受、発送、福さん及び保存に関する事項
- (オ) 消防本部及び消防署の組織及び機構に関する事項
- (カ) 消防職員の福利及び厚生に関する事項
- (キ) 消防職員の進退及び身分に関する事項
- (ク) 消防に係る庁内取締り及び財産管理に関する事項
- (ケ) 消防に係る広報紙の発行に関する事項
- (ニ) 消防本部の他の課の主管に属しない事項
- (サ) 消防に係る歳入歳出予算の編成及び執行に関する事項
- (シ) 消防に係る決算及び財産の記録管理に関する事項
- (ス) 消防に係る現金の出納及び保管に関する事項
- (セ) 消防に係る物品の調達、出納及び保管に関する事項
- (ソ) 消防職員の給与の支払に関する事項

ウ 消防団係

- (ア) 予算の執行に関する事項
- (イ) 消防団員の任免、懲戒及び服務に関する事項
- (ウ) 消防団員の退職報奨金、公務災害補償等に関する事項
- (ニ) 消防団員の福利厚生及び安全管理に関する事項
- (オ) 消防団員の表彰に関する事項
- (カ) その他消防団に関する事項
- (キ) 消防水利に関する事項

(2) 警防課

ア 警防係

- (ア) 消防計画に関する事項
- (イ) 消防職員相談制度に関する事項
- (ウ) 消防団員との連絡調整に関する事項
- (ニ) 土地開発行為の同意に関する事。
- (オ) 安全委員会に関する事。
- (カ) 特別点検に関する事。
- (キ) 消防施設整備に関する事。
- (ク) 消防現況調査に関する事。
- (ケ) 国民保護に関する事。
- (コ) り災証明、救急出動証明に関する事。

- (サ) 警防課の庶務に関する事項
- イ 消防係
 - (ア) 消防水利の指定、標識の掲示、水利変更等の事前届出に関する事。
 - (イ) 警防行事計画に関する事。
 - (ウ) 消防情報に関する事。
 - (ニ) 火災情報に関する事。
- ウ 救急係
 - (ア) 救急業務に関する事。
 - (イ) 救急医療機関との連絡調整に関する事項
- ニ 救助係
 - (ア) 救助業務に関する事。
 - (イ) 緊急消防援助隊に関する事。
- オ 通信係
 - (ア) 消防通信及び防災無線並びに有線の運用に関する事。
 - (イ) 災害情報等の収集及び伝達並びに運用に関する事。
 - (ウ) その他通信業務全般に関する事。
- カ 調査係
 - (ア) 火災原因調査に関する事。
 - (イ) 火災の損害調査に関する事。
- キ 装備係
 - (ア) 仕様書の作成検討に関する事。
 - (イ) 消防車両等の燃料に関する事。
 - (ウ) その他装備業務に関する事。
- ク 予防係
 - (ア) 予防査察に関する事。
 - (イ) 火災予防思想の普及広報及び情報収集に関する事。
 - (ウ) 民間消防組織の育成指導に関する事。
 - (ニ) 建築同意に関する事。
 - (オ) 消防設備の設置検査及び点検報告に関する事。
 - (カ) 防火対象物の防火管理及び消防計画に対する指導助言に関する事。
 - (キ) 防火対象物点検報告及び自主点検表示制度に関する事。
 - (ク) 消防法令適合通知書交付に関する事。
 - (ケ) 消防法令違反の処理に関する事。
 - (コ) 防災表示者の認定申請に関する事。
 - (サ) 防火相談に関する事。
 - (シ) 竹田市火災予防条例(平成17年竹田市条例第248号)に基づく各種制限及び届出の指導に関する事。(同条例第45条の届出に係るものを除く。)
 - (ス) 竹田市少年婦人防火委員会に関する事。
 - (セ) その他火災予防に関する事。
- ケ 危険物係
 - (ア) 危険物製造所等の許可、認可及び届出に関する事。

- (イ) 危険物製造所等の規制取締りに関すること。
- (ウ) 危険物施設の手防査察に関すること。
- (ニ) 危険物取扱者及び保安監督者の指導に関すること。
- (オ) 少量危険物及び指定可燃物の規制に関すること。
- (カ) 液化石油ガス販売事業所の許可等の意見書交付に関すること。
- (キ) 圧縮アセチレンガス等の届出に関すること。
- (ク) 火薬類取締法(昭和25年法律第149号)に基づく事務に関すること。
- (ケ) 危険物安全協会に関すること。

2. (4) 職員の配置

令和3年4月1日現在

階級 所属	計	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	備考
消防長	1	1						
次長	2		2					
総務課	2 (1)		(1)	2				
警防課	3 (1)		(1)	1		2		
消防本部計	8 (2)	1	2 (2)	3		2		
消防署長	(1)		(1)					
副署長								
当直司令								
当直係長	3			3				
通信係長	(1)			(1)				
消防係長	1			1				
調査係長	(1)			(1)				
救急係長	(1)			(1)				
救助係長	(1)			(1)				
庶務係	(3)			(1)		(2)		
経理係	(4)			(1)	(2)	(1)		
消防団係	(4)			(2)	(1)	(1)		
警防係	(4)				(1)	(1)	(2)	
予防係	(4)			(1)	(1)	(1)	(1)	
危険物係	(4)			(1)		(2)	(1)	
消防・調査係	(7)				(3)	(2)	(2)	
通信係	6			1	1	4		
救急係	12			1	5	5	1	
救助係	13			3	2	3	5	
分署長	(1)		(1)					
副分署長	1		1					
消防係長	1			1				
救急係長	1			1				
調査係長	1			1				
消防係	5				1	3	1	
救急係	5				2	3		
調査係	(5)			(2)		(3)		
消防署計	49 (41)		1 (2)	12 (12)	11 (8)	18 (13)	7 (6)	
その他								
本庁 総務課	1			1				
大分県防災 航空隊								
計	1			1				
本部・消防署・ その他合計	58 (43)	1	3 (4)	17 (12)	11 (8)	20 (13)	7 (6)	

※本部・消防署・その他合計は会計年度任用職員を含む。

()内は他の所属と兼務する者

2. (5) 職員の年齢構成

令和3年4月1日現在

年齢	階級	司令長	司令	司令補	消防士長	副士長	消防士	計	比率
18歳								0	0.0%
19歳							1	1	1.7%
20歳							2	2	3.4%
21歳								0	0.0%
22歳								0	0.0%
23歳							2	2	3.4%
24歳								0	0.0%
25歳							2	2	3.4%
26歳						2		2	3.4%
27歳						3		3	5.2%
28歳						1		1	1.7%
29歳						2		2	3.4%
30歳						4		4	6.9%
31歳						1		1	1.7%
32歳						7		7	12.1%
33歳					2			2	3.4%
34歳					6			6	10.3%
35歳								0	0.0%
36歳					2			2	3.4%
37歳					1			1	1.7%
38歳								0	0.0%
39歳				2				2	3.4%
40歳				3				3	5.2%
41歳				1				1	1.7%
42歳				3				3	5.2%
43歳				2				2	3.4%
44歳				2				2	3.4%
45歳								0	0.0%
46歳				3				3	5.2%
47歳								0	0.0%
48歳								0	0.0%
49歳			1					1	1.7%
50歳								0	0.0%
51歳								0	0.0%
52歳								0	0.0%
53歳								0	0.0%
54歳								0	0.0%
55歳								0	0.0%
56歳			1					1	1.7%
57歳								0	0.0%
58歳		1	1					2	3.4%
59歳								0	0.0%
60歳								0	0.0%
合計		1	3	16	11	20	7	58	100.0%
平均年齢		58.0	54.3	42.3	34.5	29.7	22.1	34.9	

2. (6) 職員の勤続年数表

令和3年4月1日現在

勤続年数	階級		司令長	司令	司令補	消防士長	副士長	消防士	計	比率
1年未満									0	0.0%
1年以上～2年未満								2	2	3.4%
2年以上～3年未満								1	1	1.7%
3年以上～4年未満								1	1	1.7%
4年以上～5年未満								2	2	3.4%
5年以上～6年未満							1	1	2	3.4%
6年以上～7年未満							1		1	1.7%
7年以上～8年未満							2		2	3.4%
8年以上～9年未満						1	3		4	6.9%
9年以上～10年未満							3		3	5.2%
10年以上～11年未満							3		3	5.2%
11年以上～12年未満						2	1		3	5.2%
12年以上～13年未満						1	1		2	3.4%
13年以上～14年未満						2	3		5	8.6%
14年以上～15年未満						2	2		4	6.9%
15年以上～16年未満						2	1		3	5.2%
16年以上～17年未満									0	0.0%
17年以上～18年未満					4				4	6.9%
18年以上～19年未満					1				1	1.7%
19年以上～20年未満									0	0.0%
20年以上～21年未満					2				2	3.4%
21年以上～22年未満									0	0.0%
22年以上～23年未満					3				3	5.2%
23年以上～24年未満					2				2	3.4%
24年以上～25年未満					2				2	3.4%
25年以上～26年未満					1				1	1.7%
26年以上～27年未満									0	0.0%
27年以上～28年未満									0	0.0%
28年以上～29年未満					1				1	1.7%
29年以上～30年未満									0	0.0%
30年以上～31年未満									0	0.0%
31年以上～32年未満				1					1	1.7%
32年以上～33年未満									0	0.0%
33年以上～34年未満									0	0.0%
34年以上～35年未満									0	0.0%
35年以上～36年未満									0	0.0%
36年以上～37年未満									0	0.0%
37年以上～38年未満									0	0.0%
38年以上～39年未満				1					1	1.7%
39年以上～40年未満									0	0.0%
40年以上～41年未満			1	1					2	3.4%
41年以上～42年未満									0	0.0%
42年以上～43年未満									0	0.0%
合計			1	3	16	10	21	7	58	100.0%

2. (7) 職員の条例定数及び階級別実員並びに採用退職状況

令和3年4月1日現在

区分 年度	条例 定数	実員	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	その他の 職員	年度中の異動状況			
											採用	退職	転入	転出
昭和50年度	63	66		1	1	1	8	7	48		10		2	3
" 51 "	66	70		1	1	1	11	10	41	1	3		1	
" 52 "	70	69		1	1	2	13	10	42	1		1		
" 53 "	73	73		1	1	4	12	14	41	1	4		2	2
" 54 "	73	72		1	1	4	12	18	36					1
" 55 "	79	76		1	1	5	12	22	35		4		1	1
" 56 "	79	79		1	1	5	13	36	23		3		1	1
" 57 "	79	79		1	1	5	13	37	22			1		
" 58 "	79	76				5	13	40	18				1	2
" 59 "	79	76				5	16	41	14					
" 60 "	79	77		1	1	4	16	44	11			2		
" 61 "	79	75		1		7	12	48	7					
" 62 "	79	75		1		10	11	46	7					
" 63 "	79	75		1		10	16	46	2				1	
平成元年度	79	74		1	1	9	19	44					1	
" 2 "	79	75		1	4	5	21	39	2		2			
" 3 "	79	75		1	6	6	25	35	2					
" 4 "	79	75		1	6	6	26	34	2					
" 5 "	79	75	1	1	4	6	31	29	3		1	1		
" 6 "	79	75	1	1	4	9	32	25	3				1	
" 7 "	79	74		1	6	11	39	15	2				1	2
" 8 "	79	74		1	5	14	38	11	5		3			2
" 9 "	79	74		1	5	18	36	7	7		2			3
" 10 "	79	75		1	5	21	35	3	10		4	3		1
" 11 "	79	75		1	4	21	34	2	13		3		1	
" 12 "	79	75		1	5	20	33	2	14		1	1		1
" 13 "	79	75		1	5	23	28	3	15		3	2		
" 14 "	79	75		1	9	24	20	3	17		1	1		
" 15 "	79	76		2	11	27	16	5	14				3	
" 16 "	79	76		2	9	32	11	12	10		4	1		
" 17 "	74	74		2	9	34	8	12	9	1		4		1
" 18 "	74	74		1	8	32	8	14	10		3	2		15
" 19 "	62	60		1	8	24	3	13	11		4	5	1	1
" 20 "	62	60		1	6	23	1	17	12		5	3		
" 21 "	62	61		1	10	18	2	16	14		2	3	2	
" 22 "	62	61		1	12	13	5	13	17		2	3	1	
" 23 "	62	61		1	13	9	7	12	19		3	2		
" 24 "	62	62		1	15	6	8	14	18		3	2		
" 25 "	62	62		1	10	5	12	14	19	1	5	5		
" 26 "	62	62		1	10	4	15	16	15	1	2	2		
" 27 "	62	60		1	9	7	13	17	13		1	2		
" 28 "	62	58		1	8	8	9	21	11		2	5	3	1
" 29 "	62	59		1	5	10	10	23	10		2	1		1
" 30 "	60	58		1	3	13	9	24	8		1	2		1
令和元年度	60	58		1	3	13	8	25	8		1	0		0
" 2 "	60	58		1	3	15	11	20	7	1	3	1	1	1

※退職者は前年度の退職者数を記載

2. (8) 職員の消防学校等入校状況

令和3年4月1日現在

区	消防大学校					福岡県消防学校 救急救命研修所	大分県消防学校															合計								
	新任消防長科	上級幹部研修科	幹部研修科	警防講習科	実務助修科		初任科	現任科	警防課	無線通信課	予防課	火災調査課	査察課	救助課	救急急	救急I課	救急II課	救命士追加講習等	通信指令科	初級幹部科	中級幹部科		上級幹部科	機関科	危険物科	広報科	特殊災害科	訓練科	消防指導者研修	
" 25 "							4									5			1										4	14
" 26 "							4									2			2	1										9
" 27 "				1					1		1	1				2			1						1				4	12
" 28 "																2			2											4
" 29 "									1		1	1				3			1	1									4	12
" 30 "									1	1						3			1						1					7
" 31 "									1	1						3			2										4	11
" 32 "			1						1		1					3			2	1										9
" 33 "									1		1	2				2			1	1					1				4	13
平成元年度									1	1									1											3
" 2 "									2		1			1	2				2										4	12
" 3 "										2	1	1		2	2			2			1									11
" 4 "											1	1		1	2			2								1			4	12
" 5 "									1	2	1	1			1			3		1						1			11	
" 6 "										1				1	1			4			1								4	12
" 7 "											1							6												7
" 8 "								1		3		1		1				2			1								4	13
" 9 "			1						1	2			1		1			6		1										13
" 10 "									1		1	1			2	1	3			1							2	4	21	
" 11 "									1	3							2			1										7
" 12 "									1	2	1	1		1	1	2	3				1								4	17
" 13 "									1	3					1	2	2			1										10
" 14 "										1				1	1	3				1									4	11
" 15 "									1	1		1		1			3			1								3		11
" 16 "									1	3					1	1	2				1								3	12
" 17 "									1				1	1		3				1										7
" 18 "									1	3				1	1	3				1									3	13
" 19 "									1	4		1		1		2				1							1	1		12
" 20 "									1	5				1	1	3					1								3	15
" 21 "		1							1	1	2		1		1		3			1							1	1		13
" 22 "		1							1	1	3			1		2	3				1								3	16
" 23 "									1	3		1		1		3				1									1	11
" 24 "									1	3					1	2	3				1								3	14
" 25 "									1	5		1		1		3				1								1		13
" 26 "									1	2			1		2	2					1	1							3	13
" 27 "									1	1				1		3				1							1	1		9
" 28 "		1							1	2			1		2	2					1	1								11
" 29 "									1	2		1		1		1				1								1		8
" 30 "									1	1					2	1			4	1		1	1						3	15
令和元年度									1	1		1		1				1	1								1			8
" 2 "									1				1		2	1			2	1		1	1				1			13

2. (9) 職員の各種資格免許取得状況

令和3年4月1日現在

技能資格		階級					消防士	計				
		消 司	防 令	長	消 司	防 令			消 司	防 令	補 士	防 長
運 転 免 許	大型自動車免許		1		2		16	4	2			25
	中型自動車免許		1		2		15	11	20			49
	普通自動車免許		1		3		16	11	20	7		58
	自動2輪(大型・普通)		1		1		6	1	3	1		13
	大型特殊				1		2	1				4
特 殊 技 能	小型移動クレーン		1		1		15	7	10			34
	玉掛け技能		1		1		15	8	10			35
	巻き上げ						7	5	12			24
無 線 関 係	第1級陸上特殊無線技士											0
	第2級陸上特殊無線技士		1		2		12		1			16
	第3級陸上特殊無線技士						5	11	19	7		42
危 険 物	危険物取扱者(甲)											0
	危険物取扱者(乙4類)				1		4	1				6
消 防 設 備	消防設備点検資格者						1					1
	消防設備士(甲)											0
	消防設備士(乙)				1		1	1				3
予 防 技 術 資 格	防火査察						4	1	2			7
	消防用設備等							1	2			3
	危険物						1		1			2
救 急 資 格	救急救命士		1		2		8	7	8	1		27
	救急II課程		1		1							2
	救急科				1		16	7	19	4		47
	応急手当指導員		1		2		16	11	20	7		57
そ の 他 資 格	2級小型船舶操縦士		1				1					2
	潜水士免許		1		1							2
	ガス溶接士											0
	ボイラー技士2級											0

3. 警 防



3. (1) 消防機械の配置状況

令和3年4月1日現在

種別	所属			計
	消防本部	消防本署	久住分署	
水槽付ポンプ自動車		3	1	4
救助工作車		1		1
高規格救急車		2	1	3
指揮車	1			1
広報車	1			1
連絡車		1	1	2
小型動力ポンプ積載車		1		1
支援車	1			1
消防団指揮車	1			1
資器材搬送車		1		1

3. (2) 通信施設

令和3年4月1日現在

種別	消防有線								消防無線				その他 ネット 1 1 9
	火災専用電話	構内自動電話交換機	一般加入電話	庁内電話	直通電話	転送電話	火災問い合わせ電話	ファクシミリ	固定局	基地局	車載	携帯	
消防本部	8	1	7	22			6	2	1	1	13	55	
久住分署			3			1		1		1	3	18	
三宅中継所									1	1			
計	8	1	10	22	0	1	6	3	2	3	16	73	145

3. (3) 無線局一覧表

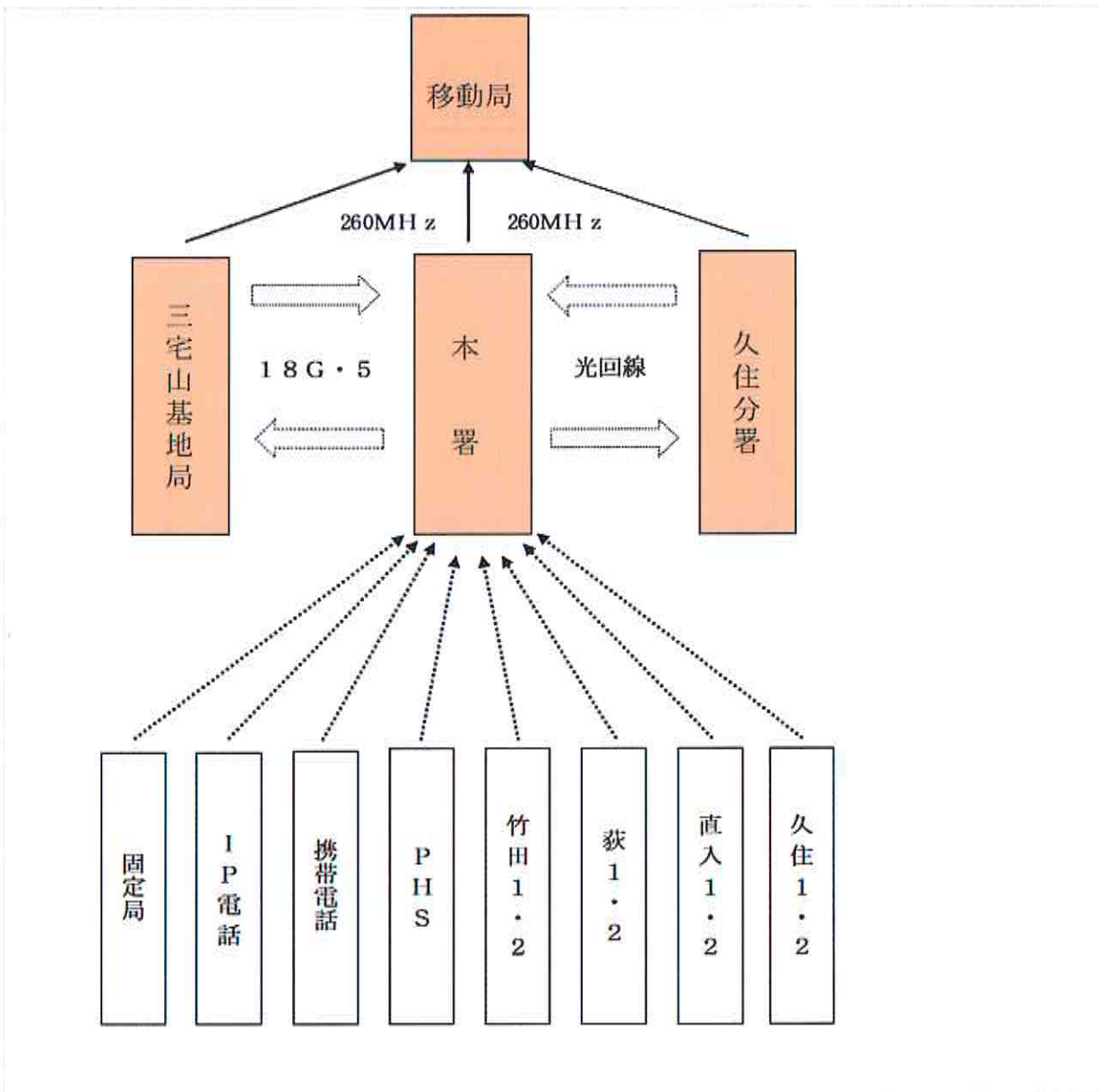
令和3年4月1日現在

呼出名称	無線局の種別	免許番号	取得年月日
たけしょうほんぶ	基地局	九基第5635	平成28年 6月 1日
たけしょうほんぶ	固定局	九第40621	平成24年12月 1日
たけしょうみやけ	基地局	九基第318524	平成27年 2月24日
たけしょうみやけ	固定局	九第17127	平成26年12月15日
たけしょうくじゅう	基地局	九基第5637	平成28年 6月 1日

3. (4) 無線電話および119番電話回線系統図

令和3年4月1日現在

- ・アプローチ回線 18G、5G、光回線
- ・活動波 1, 2
- ・主運用波
- ・統制波



3. (5) 車両管理表

令和3年4月1日現在

車名 詳細	登録初年 月 日	車種別 ポンプ車分類等	登録番号	車両メーカー ポンプメーカー	車両総重量 ポンプ級別	呼出名称	経過年数 設置場所
水槽付 ポンプ自動車	平成20年 11月7日	中型4WD CD-1型(0.9t積水)	大分830 ね 119	日野 小川ポンプ	6,350kg A-2級	たけしょう1	12年 本署
水槽付 ポンプ自動車	令和3年 3月8日	中型4WD CD-1型(1.2t積水)	大分830 す 1200	日野 日本機械工業	6,985kg	たけしょう2	0年 本署
水槽付 ポンプ自動車	令和2年 3月9日	中型2WD 水II型 2t積水	大分800 ね 2000	日野 日本機械工業	10,820kg	たけしょう3	1年 本署
救助工作車	平成27年 10月9日	大型4WD クレーン、ウインチ他	大分830 ゆ 119	日野	11,300kg	たけしょう4	5年 本署
支援車 (デリカ)	平成25年 2月26日	普通4WD 後方支援車	大分800 す 1062	三菱	2,230kg	たけしょう5	7年 本署
指揮車 (フォレスター)	平成28年 12月1日	普通4WD 緊急車両	大分800 す 3244	スバル	1,825kg	たけしょう6	4年 本署
広報車 (アイシス)	平成22年 10月26日	普通2WD 人員輸送兼用車	大分501 さ 6094	トヨタ	1,815kg	たけしょう7	10年 本署
連絡車 (本署)	平成21年 8月26日	軽四車両4WD 広報、事務	大分480 き 2106	ダイハツ	1,390kg	たけしょう8	11年 本署
団車両 (エスクード)	平成17年 8月26日	普通4WD 現場指揮車	大分800 さ 6424	スズキ	1,875kg	たけしょう10	15年 本署
予防査察車 兼 資機材搬送車	平成28年 12月6日	普通4WD 緊急車両	大分880 あ 1238	トヨタ ピックアップ	1,340kg	たけしょう11	4年 本署
団車輛	平成22年 1月26日	軽四車輛4WD 消防車	大分880 あ 483	スバル	1,530kg	たけしょう12	12年 本署
高規格救急車	平成30年 10月19日	普通4WD 除細動器他	大分800 す 4208	トヨタ	3,255kg	たけしょう きゅうきゅう1	2年 本署
高規格救急車	平成29年 11月30日	普通4WD 除細動器他	大分800 す 3761	トヨタ	3,245kg	たけしょう きゅうきゅう2	3年 本署
水槽付ポンプ自動車 (久住分署)	平成23年 12月12日	中型4WD CD-1型(0.9t積水)	大分830 ま 119	日野 小川ポンプ	6,385kg	たけしょう くじゅう1	9年 久住分署
連絡車 (久住分署)	平成19年 6月4日	軽四車両4WD 広報、人員輸送車	大分800 あ 426	スズキ	1,400kg	たけしょう くじゅう3	13年 久住分署
高規格救急車 (久住分署)	平成27年 2月27日	普通4WD 除細動器他	大分800 さ 2201	トヨタ	3,165kg	たけしょう くじゅう きゅうきゅう1	5年 久住分署

3. (6) 救助資機材の保有状況

令和3年4月1日現在

分類	品名	員数	品名	員数
一般救助用器具	かぎ付きはしご	2	空気式救助マット	1
	三連はしご	4	バスケット担架	1
	救命索発射銃	1	カラビナ	29
	救助用縛帯	1	滑車	7
切断用器具	油圧切断機	1	鉄線カッター	3
	エンジンカッター	1	空気鋸	1
	チェーンソー	2	大型油圧切断機	2
重量物排除用器具	大型油圧スプレッター	1	マット型空気ジャッキ	4
	可搬ウインチ	2	油圧ジャッキ	1
	ワイヤーロープ	6	小型移動式クレーン	1
隊員保護用器具	皮手袋	7	フルボディーハーネス	6
	耐電手袋	5	安全帯	4
水難救助用器具	救命胴衣	10	救命浮輪	2
			救命ボート	1
破壊用器具	万能斧	4	削岩機	2
	ハンマー	1		
呼吸保護用器具	空気呼吸器	16	有毒ガスマスク	9
	防塵マスク	5		
山岳救助用器具	分離式担架	1	編み構造ロープ 100m	2
	SKED	1	50m	4
	山岳救助器具一式	1	25m	1
測定用器具	複合ガス検知器	1	/	/
	γ線及びX線線量率計	5		

3. (7) 相互応援・支援協定締結状況

<相互応援協定>

令和3年4月1日現在

協定名称	締結市町村名等	締結の状況	締結年月日
大分県常備消防 相互応援協定	大分県下14消防本部	火災・救急・救助 その他の災害について	昭和51年 3月31日
大分県防災ヘリコプター 応援協定	大分県・大分県下 14消防本部	火災・救急・救助 その他の災害について	平成 9年 6月 1日
隣接常備消防 相互応援協定書	阿蘇広域行政事務組合	火災・救急・救助 その他の災害について	平成10年 3月 4日
消防相互応援協定	西臼杵広域行政事務組合	火災・救急・救助 その他の災害について	平成28年 4月 1日

<災害時支援協定>

令和3年4月1日現在

協定名称	締結団体等	締結の状況	締結年月日
地震災害時における 建設用資機材の支援に 関する協定	社団法人 大分県建設業協会竹田支部 〃 大野支部	地震・火災・風水害等の 活動に対して行う建設用 の資機材の支援 (オペレーター及び指揮監 督者を含む)	平成12年 3月 7日
消火用水供給支援に 関する協定	豊肥生コンクリート協同組合	火災等の発生時における消 火活動に際し、消火用水の 供給支援	平成26年11月 1日

4. 予 防



4. (1) 防火対象物の現況

150㎡以上 令和3年4月1日現在

(項)	対象物の種別		施設数
(1)	イ	劇場・映画館・観劇場他	2
	ロ	公会堂又は集会場	37
(2)	イ	キャバレー・カフェー	0
	ロ	遊技場又はダンスホール	4
	ハ	性風俗関連特殊営業を含む店舗等	0
	ニ	カラオケボックスその他遊興のための個室を利用させるもの	0
(3)	イ	待合・料理、これらに類するもの	0
	ロ	飲食店	41
(4)		百貨店・マーケット等	38
(5)	イ	旅館・ホテル・宿泊所	60
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	116
(6)	イ	病院・診療所	18
	ロ	老人福祉施設・精神薄弱者支援施設他	20
	ハ	小規模多機能型老人福祉施設・障害者自立支援法に該当するもの	32
	ニ	幼稚園・盲学校・支援学校	5
(7)		小・中・高・大学・高専・各種学校	26
(8)		図書館・美術館等	7
(9)	イ	蒸気浴場・熱気浴場	0
	ロ	上記以外の浴場	14
(10)		車両の停車場・船舶の発着場	4
(11)		神社・寺院・教会等	67
(12)	イ	工場・作業場	132
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ	0
(13)	イ	自動車車庫・駐車場	19
	ロ	回転翼航空機の格納庫	1
(14)		倉庫	57
(15)		前各号に該当しない作業場	136
(16)	イ	複合用途防火対象物	120
		(特定防火対象物が存するもの)	0
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物	23
(16-2)		地下街	0
(16-3)		準地下街	0
(17)		重要文化財・重要有形民俗文化財	4
(18)		アーケード	0
(19)		市町村長の指定する山林	0
(20)		自治省令で定める船車	0
合計			983

4. (2) 建築同意件数

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(項)		対象物の種別	新築	増築	改築	移転	用途 変更	模様 替	計
(1)	イ	劇場・映画館・観劇場他							0
	ロ	公会堂又は集会場							0
(2)	イ	キャバレー・カフェー							0
	ロ	遊技場又はダンスホール							0
	ハ	性風俗関連特殊営業を含む店舗等							0
	ニ	カラオケボックスその他遊興のための個室を利用させるもの							0
(3)	イ	待合・料理、これらに類するもの							0
	ロ	飲食店							0
(4)		百貨店・マーケット等							0
(5)	イ	旅館・ホテル・宿泊所							0
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	2						2
(6)	イ	病院・診療所・助産所							0
	ロ	主として要介護状態にある者又は重度の障がい者等が所する施設・救護施設・乳児院・認知症グループホーム等							0
	ハ	老人福祉施設・通所介護施設・小規模多機能型居宅介護事業施設・有料老人ホーム等	1						1
	ニ	幼稚園・盲学校・特別支援学校							0
(7)		小・中・高・大学・高専・各種学校							0
(8)		図書館・美術館等							0
(9)	イ	蒸気浴場・熱気浴場							0
	ロ	上記以外の浴場							0
(10)		車両の停車場・船舶の発着場							0
(11)		神社・寺院・教会等							0
(12)	イ	工場・作業場	1	1					2
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ							0
(13)	イ	自動車車庫・駐車場	1						1
	ロ	回転翼航空機の格納庫							0
(14)		倉庫							0
(15)		前各号に該当しない作業場	3						3
(16)	イ	複合用途防火対象物（特定防火対象物が存するもの）							0
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物							0
(16-2)		地下街							0
(16-3)		準地下街							0
(17)		重要文化財・重要有形民俗文化財							0
(18)		アーケード							0
(19)		市町村長の指定する山林							0
(20)		自治省令で定める船車							0
		合計	8	1	0	0	0	0	9

4. (3) 消防用設備等点検結果報告提出対象物

令和3年4月1日現在

(項)	対象物の種別		対象物数			報告済対象物数		
			1,000㎡未満	1,000㎡以上	総数	1,000㎡未満	1,000㎡以上	総数
(1)	イ	劇場・映画館・観劇場他	1	1	2	0	1	1
	ロ	公会堂又は集会場	35	3	38	4	3	7
(2)	イ	キャバレー・カフェー	0	0	0	0	0	0
	ロ	遊技場又はダンスホール	2	1	3	2	1	3
	ハ	性風俗関連特殊営業を含む店舗等	0	0	0	0	0	0
	ニ	カラオケボックスその他遊興のため個室を利用させるもの	1	0	1	0	0	0
(3)	イ	待合・料理、これらに類するもの	0	0	0	0	0	0
	ロ	飲食店	119	0	119	4	0	4
(4)		百貨店・マーケット等	33	10	43	11	9	20
(5)	イ	旅館・ホテル・宿泊所	58	10	68	21	6	27
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	140	10	150	29	6	35
(6)	イ	病院・診療所・助産所	14	9	23	8	7	15
	ロ	主として要介護状態にある者又は重度の障がい者等が所する施設・救護施設・乳児院・認知症グループホーム等	11	9	20	10	8	18
	ハ	老人福祉施設・通所介護施設・小規模多機能型居宅介護事業施設・有料老人ホーム等	30	2	32	17	2	19
	ニ	幼稚園・特別支援学校	4	1	5	3	1	4
(7)		小・中・高・大学・高専・各種学校	6	22	28	0	5	5
(8)		図書館・美術館等	4	3	7	1	2	3
(9)	イ	蒸気浴場・熱気浴場	0	0	0	0	0	0
	ロ	上記以外の浴場	16	1	17	5	1	6
(10)		車両の停車場・船舶の発着場	4	0	4	0	0	0
(11)		神社・寺院・教会等	67	0	67	0	0	0
(12)	イ	工場・作業場	147	14	161	4	6	10
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ	0	0	0	0	0	0
(13)	イ	自動車車庫・駐車場	22	1	23	3	1	4
	ロ	回転翼航空機の格納庫	1	0	1	0	0	0
(14)		倉庫	117	5	122	1	1	2
(15)		前各号に該当しない作業場	166	33	199	15	10	25
(16)	イ	複合用途防火対象物（特定防火対象物が存するもの）	147	10	157	15	7	22
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物	23	1	24	0	1	1
(16-2)		地下街	0	0	0	0	0	0
(16-3)		準地下街	0	0	0	0	0	0
(17)		重要文化財・重要有形民俗文化財	11	0	11	3	0	3
(18)		アーケード	0	0	0	0	0	0
(19)		市町村長の指定する山林	0	0	0	0	0	0
(20)		自治省令で定める船車	0	0	0	0	0	0
合計			1179	146	1325	156	78	234

4. (4) 防火管理者講習会実施状況

年別	竹田市	豊後大野市 (朝地町・緒方町)	管外	受講者合計
昭和62年	29	8	3	40
〃 63年	15	6	9	30
平成元年	15	3	2	20
〃 2年	20	4	11	35
〃 3年	25	6	8	39
〃 4年	14	3	2	19
〃 5年	15	11	3	29
〃 6年	14	3	4	21
〃 7年	30	2	9	41
〃 8年	19	5	9	33
〃 9年	25	5	8	38
〃 10年	6	6	7	19
〃 11年	14	9	0	23
〃 12年	15	6	0	21
〃 13年	11	4	0	15
〃 14年	17	5	5	27
〃 15年	19	3	3	25
〃 16年	20	2	7	29
〃 17年	12	4	5	21
〃 18年	18	17	8	43
〃 19年	25	2	5	32
〃 20年	17	0	18	35
〃 21年	20	0	12	32
〃 22年	48	0	0	48
〃 23年以降	0	0	0	0
合計	463	114	138	715

※平成22年度から（財）大分県設備安全協会が実施。

4. (5) 民間防火クラブ結成状況

[幼年消防クラブ]

令和3年4月1日現在

	クラブ名称	市町別	結成年月日	クラブ会員数
1	あさひヶ丘保育園幼年消防クラブ	竹田市	昭和59年 1月28日	39
3	竹田保育所幼年消防クラブ	竹田市	平成 3年 3月 1日	52
4	荻保育園幼年消防クラブ	荻町	昭和61年 3月 1日	75
5	久住保育所幼年消防クラブ	久住町	昭和61年 3月 1日	38
6	なおいりこども園幼年消防クラブ	直入町	平成 7年11月 9日	58
合 計				262

[婦人防火クラブ]

令和3年4月1日現在

	クラブ名称	市町別	結成年月日	クラブ会員数
1	豊岡地区婦人防火クラブ	竹田市	昭和53年 4月11日	25
合 計				25

4. (6) 危険物製造所等の状況

(1) 管内危険物施設の現況

令和3年4月1日現在

区分	市設置数 竹田市
屋内貯蔵所	0
屋外タンク貯蔵所	8
屋内タンク貯蔵所	0
地下タンク貯蔵所	22
移動タンク貯蔵所	21
屋外貯蔵所	2
小計	53
給油取扱所	27
第一種販売取扱所	0
一般取扱所	17
小計	44
合計	97

(2) 危険物製造所等の取扱数量別分類

令和3年4月1日現在

区分	数量別						計
	5倍以下	5倍を超え 10倍以下	10倍を超え 50倍以下	50倍を超え 100倍以下	100倍を超え 200倍以下	200倍を 超えるもの	
屋内貯蔵所							0
屋外タンク貯蔵所	1	2	5				8
屋内タンク貯蔵所							0
地下タンク貯蔵所	16	4	2				22
移動タンク貯蔵所	21						21
屋外貯蔵所	2						2
小計	40	6	7	0	0	0	53
給油取扱所	1	3	6	6	9	2	27
第一種販売取扱所	0						0
一般取扱所	6	6	5				17
小計	7	9	11	6	9	2	44
合計	47	15	18	6	9	2	97

4.(7)防火標語の変遷

時代	防火標語
明治(後期)	ポンプ百より用心一つ
大正(後期)	不意の地震にふだんの備え
(戦時中)	火事は 身の損 国の損
(戦 後)	火の手に渡すな衣食住
昭和29年度	火の用心 一歩進めて燃えない工夫
” 30 ”	火の用心は いつもきれいな煙突から
” 31 ”	はやくみつけて……—九
” 32 ”	燃えない工夫 焼かない備え
” 33 ”	たばこは吸いがらいれのあるところで
” 34 ”	火の始末 人にたのむな 任せるな
” 35 ”	もういちど 火の元こくばれ 目と心
” 36 ”	火の用心
” 37 ”	火の始末人にたのむな任せるな
” 38 ”	さあ寝よう アッそのまえに火の点けん
” 39 ”	あなたは火事の恐ろしさを知らない
” 40 ”	今捨てたタバコの温度が700度
” 41 ”	あぶない！ 消し忘れ切り忘れ
” 42 ”	今燃えようとしている火がある
” 43 ”	慣れた火に 新たな注意
” 44 ”	隣にも声かけあってよい防火
” 45 ”	生活の一部こしよう火の点検
” 46 ”	幸せを明日につなぐ火の始末
” 47 ”	火災は人災 防ぐはあなた！
” 48 ”	使う火を消すまで離すな目と心
” 49 ”	それぞれの持場で生かせ火の用心
” 50 ”	これくらいと思ふ油断を火が狙う
” 51 ”	あなたです！ 火事を出すのも防ぐのも
” 52 ”	毎日が防火デーです ぼくの家
” 53 ”	火の用心 心で用心 目で用心
” 54 ”	点検は防火のはじまりしめくり
” 55 ”	“あとで” より “いま” が大切 火のしまつ
” 56 ”	怖いのは「消したつもり」と「消えたはず」
” 57 ”	防火の大役 あなたが主役
” 58 ”	消えたかな！ 気になるあの火 もう一度
” 59 ”	その火 その時 すぐ始末！
平成 元年度	おとなりに あげる安心 火の始末
” 2 ”	まず消そう 火への鈍感 無関心
” 3 ”	毎日が 火の元情報 発令中
” 4 ”	点検を 重ねて築く “火災ゼロ”
” 5 ”	防火の輪 つなげて広げて なくす火事
” 6 ”	安心の 暮らしの中心 火の用心
” 7 ”	災害に 備えて日頃の 火の用心
” 8 ”	便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ
” 9 ”	つけた火は ちゃんと消すまで あなたの火
” 10 ”	気をつけて はじめはすべて 小さな火
” 11 ”	あぶないよ ひとりぼっちにした その火
” 12 ”	火をつけた あなたの責任 最後まで
” 13 ”	たしかめて。火を消してから 次のこと
” 14 ”	消す心 置いてください 火のそばに
” 15 ”	その油断 火から炎へ 災いへ
” 16 ”	火は消した？ いつも心に きいてみて
” 17 ”	あなたです 火のあるくらしの 見はり役
” 18 ”	消さないで あなたの心の 注意の火
” 19 ”	火は見てる あなたが隠れる その時を
” 20 ”	火のしまつ 君がしなくて 誰がする
” 21 ”	消えるまで ゆっくり火の元 にらめっ子
” 22 ”	「消したかな」あなたを守る 合言葉
” 23 ”	消したはず 決めつけないで もう一度
” 24 ”	消すまでは 出ない行かない 離れない
” 25 ”	消すまでは 心の警報 ONのまま
” 26 ”	もういいかい 火を消すまでは まあだだよ
” 27 ”	無防備な 心に火災が かくれんぼ
” 28 ”	消しましょう その火その時 その場所で
” 29 ”	火の用心 ことばを形に 習慣に
” 30 ”	忘れてない？ サイブにスマホに 火の確認
令和元年度	ひとつづつ いいね！で確認 火の用心
” 2 ”	その火事を 防ぐあなたに 金メダル
” 3 ”	おうち時間 家族で点検 火の始末

5. 災 害 統 計



火災編

令和2年の火災概要

本年の火災件数は35件で、前年と比較すると3件の増加である。火災種別ごとに前年と比較すると、その他火災が8件、車両火災が2件の増加、建物火災は3件、林野火災は4件の減少である。また、3月、4月、5月でそれぞれ7件ずつ計21件が集中して発生している。

損害額においては合計で34,419千円となっており、前年と比較すると22,380千円増となっている。また、火災による死者は0名で2名の減、負傷者は3名で1名増となっている。

出火原因別では本年もたき火を原因とするものが半数以上を占めており、特に田の枯草等を焼却中に火災に至ったものが多い。

防火対策への取組みとして、防火広報やIP告知放送を通じての啓発活動により、住民1人ひとりの防火意識の向上に一定の効果をもたらしていると考えられるが、枯草焼き等による火災は依然として火災の割合の多くを占めている。そのため、令和3年も令和2年に引き続いて防火広報等を実施し、住民が安心して暮らせるまちづくりを目指していきたい。

1. 地域別火災件数及び死者負傷者数

() 内は昨年の数値

区分	建物	林野	車両	その他	計	死者数	負傷者数	
竹田市	竹田地域	0 (4)	2 (7)	0 (0)	13 (5)	15 (16)	0 (1)	1 (2)
	荻地域	0 (1)	3 (2)	0 (0)	0 (2)	3 (5)	0 (0)	0 (0)
	久住地域	1 (2)	4 (6)	2 (0)	2 (1)	9 (9)	0 (1)	1 (0)
	直入地域	3 (0)	3 (1)	0 (0)	2 (1)	8 (2)	0 (0)	1 (0)
管外	管轄外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
合計	4 (7)	12 (16)	2 (0)	17 (9)	35 (32)	0 (2)	3 (2)	

2. 損害額

単位：千円

区分	令和2年	令和元年	増減
建物火災	32,568	10,352	△22,216
林野火災	624	1,065	▼441
車両火災	960	0	△960
その他火災	267	622	▼355
合計	34,419	12,039	△22,380

3. 原因別発生状況

区分	たき火	火入れ	不明	その他	排気管	風呂	こんろ
件数	21	0	6	7	0	0	0
区分	電気器具	合計					
件数	1	35					

4. 月別火災発生状況

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	2	0	7	7	7	3	1	0	0	4	3	1	35

5. 曜日別発生状況

区分	日	月	火	水	木	金	土	計
建物	0	1	0	1	1	1	0	4
林野	0	2	2	3	0	3	2	12
車両	0	0	0	0	0	2	0	2
その他	1	3	0	2	5	4	2	17
計	1	6	2	6	6	10	4	35

6. 時間別発生状況

区分	0:00 ~5:00	5:00 ~8:00	8:00 ~11:00	11:00 ~13:00	13:00 ~17:00	17:00 ~21:00	21:00 ~24:00	不明	計
建物	1	0	0	0	1	0	2		4
林野	0	0	2	2	8	0	0		12
車両	0	0	0	1	1	0	0		2
その他	1	0	2	3	7	4	0		17
計	2	0	4	6	17	4	2		35

救急編

令和2年の救急概要

竹田市消防本部の令和2年の出場件数は1,260件、1日の平均出場件数は3.5件である。出場件数は183件減（12.0%減）、搬送人員数は180人減（13.1%減）となっている。出場件数の減少は、新型コロナウイルス感染症対策の基本方針により、4月16日から全国に拡大した緊急事態宣言に伴う外出自粛や各種行事が中止された影響と考えられる。竹田市においても12名の感染者が発生したが、2月27日に「竹田市新型コロナウイルス対策本部」が設置され救急隊員はもとより職員への感染防止に努めている。

搬送件数は、1,182件であり、管内搬送件数は746件（63.1%）であり、昨年が884件（65.0%）であったことから138件減少（1.9%減）している。管外搬送件数は436件（36.9%）であり、昨年が477件（35.0%）より41件減少（1.9%増）している。

本年も医療チームとの連携による救急活動が実施されている。今後も積極的な要請を行い、傷病者の予後改善へと繋げていきたい。

救急救命士の特定行為処置拡大により心停止前の静脈路確保及び低血糖の傷病者へのブドウ糖投与が平成27年から実施可能となっている。気管内挿管及び薬剤投与（アドレナリン）実施件数が増加している。静脈路確保実施件数は増減なく血糖測定は前年に比べ減少した。意識障害の鑑別としての血糖測定や、心停止前の静脈路確保の適応を早期に判断し適切に実施していきたい。

また、本年も竹田医師会病院と大分大学医学部附属病院で運用救命士を対象とした再教育病院実習を行い、竹田医師会病院では病院収容時に処置補助実習を実施した。医療機関の協力により技術の研鑽が傷病者への特定行為成功件数の増加に繋がったと推察される。

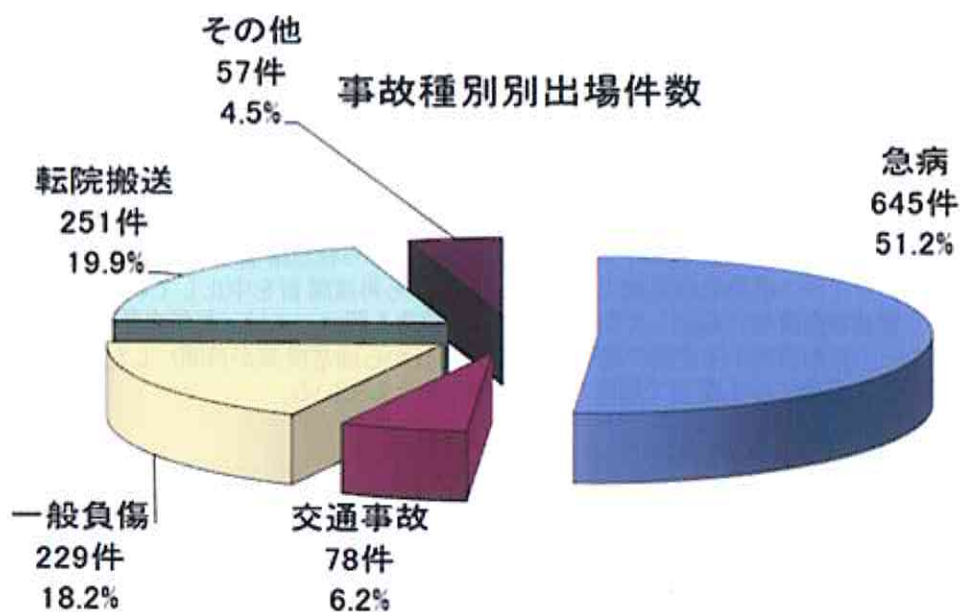
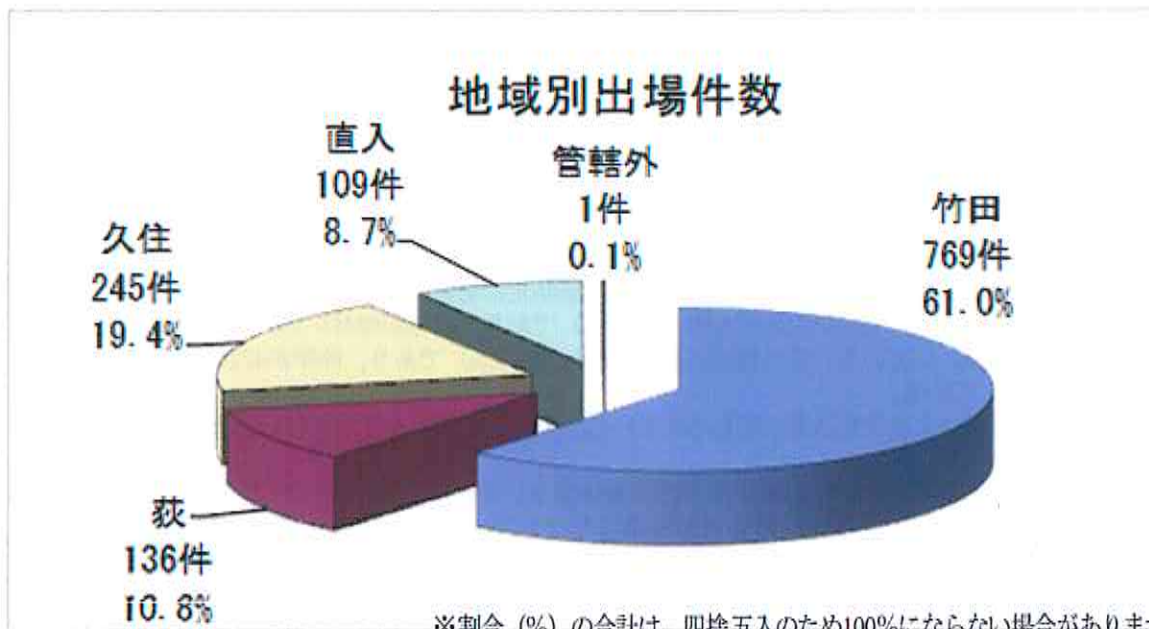
令和2年は心肺停止患者が10件増加し、バイスタンダーCPR（その場に居合せた人による心肺蘇生）の実施率は61.0%（心肺停止傷病者数41名に対し25件）で、昨年より0.3%減となっている。本年から新型コロナウイルス感染症対策の口頭指導（換気、傷病者及び救助者へのマスクの着用等）を実施している。今後も119番受理時の口頭指導技術の向上を目指し、バイスタンダーCPRの普及と同時に救助者の安全も確保していきたい。

救命率向上のため、普通救命講習、一般救急講習、救命入門コースともに実施していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、4月1日から講習を中止している。7月1日から救急講習受付を再開したが、7月28日に大分県で新型コロナウイルス感染症患者発生に伴い7月31日から再度講習を中止しているが、主催側と協議し資格取得に伴う普通救命講習に限定して開催している。救命入門コースは、毎年多数の受講者がいるが、本年は3月2日からの竹田市内小中学校の臨時休校（5月18日から通常授業が再開）したことによる授業日数の減少や多数の生徒が密になる環境で開催となるため中止としている。

1. 地域別出場件数

単位：件

		急病	交通事故	一般負傷	その他	令和2年	令和元年	前年比較
竹田市	竹田	384	46	139	200	769	882	▲113
	荻	95	9	23	9	136	125	11
	久住	113	14	46	72	245	303	▲58
	直入	53	8	21	27	109	131	▲22
	計	645	77	229	308	1,259	1,441	▲182
管轄外		0	1	0	0	1	2	▲1
合計		645	78	229	308	1,260	1,443	▲183



2. 出場状況

	令和2年	令和元年	対前年比 (率)	備考
出場件数	1,260件	1,443件	▲183件	(一日平均)
			(12.0%減)	3.5件
搬送人員	1,193人	1,373人	▲180	(不搬送件数)
			(13.1%減)	78件

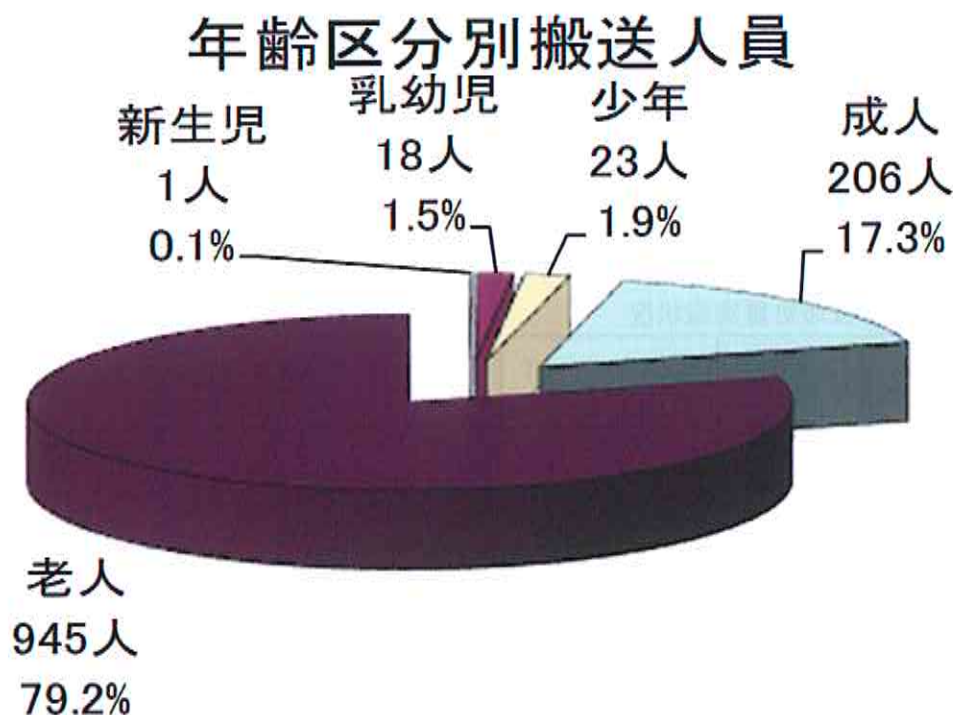
3. 竹田市月別救急出場件数（過去5年間）

単位：件

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和2年	94	100	83	94	81	95	101	127	96	118	138	133	1260
令和元年	147	109	118	122	140	111	128	126	109	107	99	127	1443
平成30年	135	130	132	121	117	113	158	165	100	103	105	94	1473
平成29年	147	108	125	124	119	101	127	114	110	99	122	134	1430
平成28年	110	121	135	127	120	97	130	133	112	119	143	130	1477

4. 年齢区分別搬送人員

年齢区分	新生児	乳幼児	少年	成人	老人	計
搬送人員	1人	18人	23人	206人	945人	1,193人
率	0.1%	1.5%	1.9%	17.3%	79.2%	100.0%



※割合（%）の合計は、四捨五入のため100%にならない場合があります。

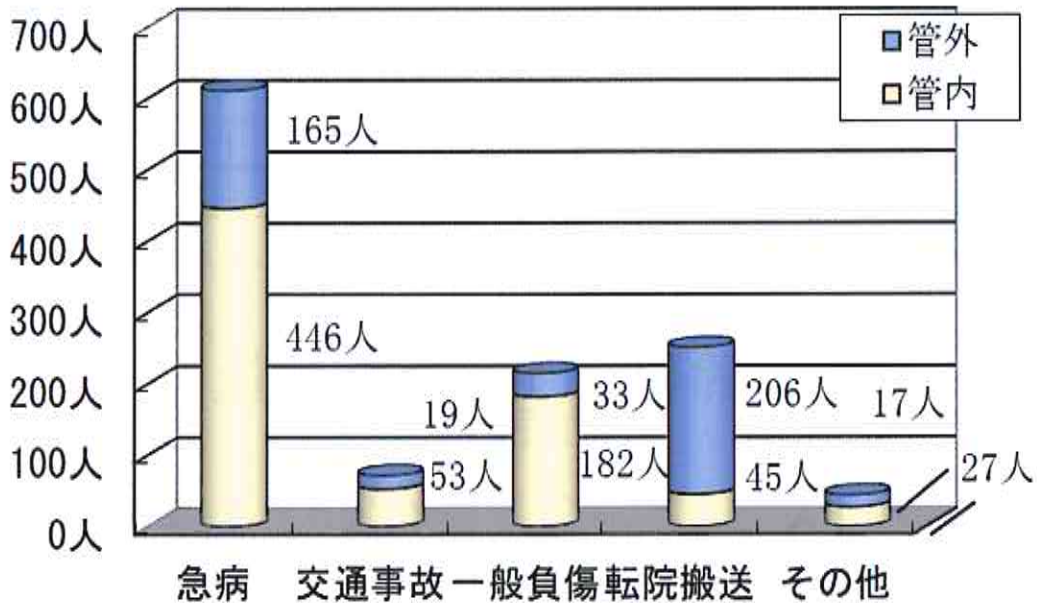
5. 現場到着所要時間別出場件数

	3分未満	3分以上	5分以上	10分以上	20分以上	現場到着 平均所要時間
		5分未満	10分未満	20分未満		
令和2年	16件	99件	570件	461件	114件	10分48秒

6. 管轄外搬送件数

	管轄外搬送件数	前年対比
令和2年	436件（うち転院搬送206件）	▲41件（8.6%減）
令和元年	477件（うち転院搬送220件）	
平成30年	528件（うち転院搬送204件）	

事故種別別收容病院管轄



7. 救急救命士による救命処置実施状況

	電気ショック	気管挿管	コンピュブ・LTによる気道確保	血糖測定	静脈路確保	薬剤投与
令和2年	2件	21件	4件	30件	41件 (心停止後23件) (心停止前18件)	23件 (アドレナリン22件) (ブドウ糖 1件)
令和元年	5件	11件	7件	46件	41件 (心停止後25件) (心停止前16件)	18件 (アドレナリン16件) (ブドウ糖 2件)

8. 救急講習受講状況

	受講団体数	新規講習	再講習	総数
普通救急講習	6団体	64人	2人	66人
救命入門コース	0団体			0人
一般講習	10回			184人

9. 心肺停止患者数及びバイスタンダーによる心肺蘇生実施状況

	令和2年	令和元年	前年対比
心肺停止患者	41名	31名	△10名 (32.3%増)
バイスタンダーCPR有	25件	19件	△6件 (36.6%増)
心肺停止患者に対する バイスタンダーCPR実施比率	61.0%	61.3%	0.3%減

救 助 編

1. 令和2年の救助概要

令和2年の救助出場は37件で昨年より4件増加している。事故種別では、交通事故16件（昨年同期12件）、水難事故1件（昨年同期0件）、自然災害1件（昨年同期0件）、機械事故1件（昨年同期2件）、山岳10件（昨年同期11件）、行方不明者3件（昨年同期3件）、その他の出場5件（昨年同期5件）であった。事故種別ごとの救助出場件数の推移をみると交通事故が4件増加し、水難事故と自然災害が各1件ずつ発生している。一方で、機械事故と山岳は昨年より1件ずつ減少している。

2. 令和2年の救助出場件数 37 件

3. 月別出場件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数	1	3	5	2	3	2	5	3	1	5	5	2	37

4. 地域別事故種別発生状況(累計)

()内は昨年同期

事故種別 地域別	火 災		交通事 故	水難事 故	自然災 害	機械事 故	建物事 故	ガス酸 欠	破裂事 故	その他事故			計
	建物	以外								山岳	不明	他	
竹田			8			1					1	4	14
			(6)								(3)	(5)	(14)
荻			1								2		3
			(3)										(3)
久住			4	1						10			15
			(1)			(1)				(11)			(13)
直入			3		1							1	5
			(2)			(1)							(3)
計	0	0	16	1	1	1	0	0	0	10	3	5	37
	0	0	(12)	0	0	(2)	0	0	0	(11)	(3)	(5)	(33)
管轄外													0
													0
合 計	0	0	16	1	1	1	0	0	0	10	3	5	37
	0	0	(12)	0	0	(2)	0	0	0	(11)	(3)	(5)	(33)

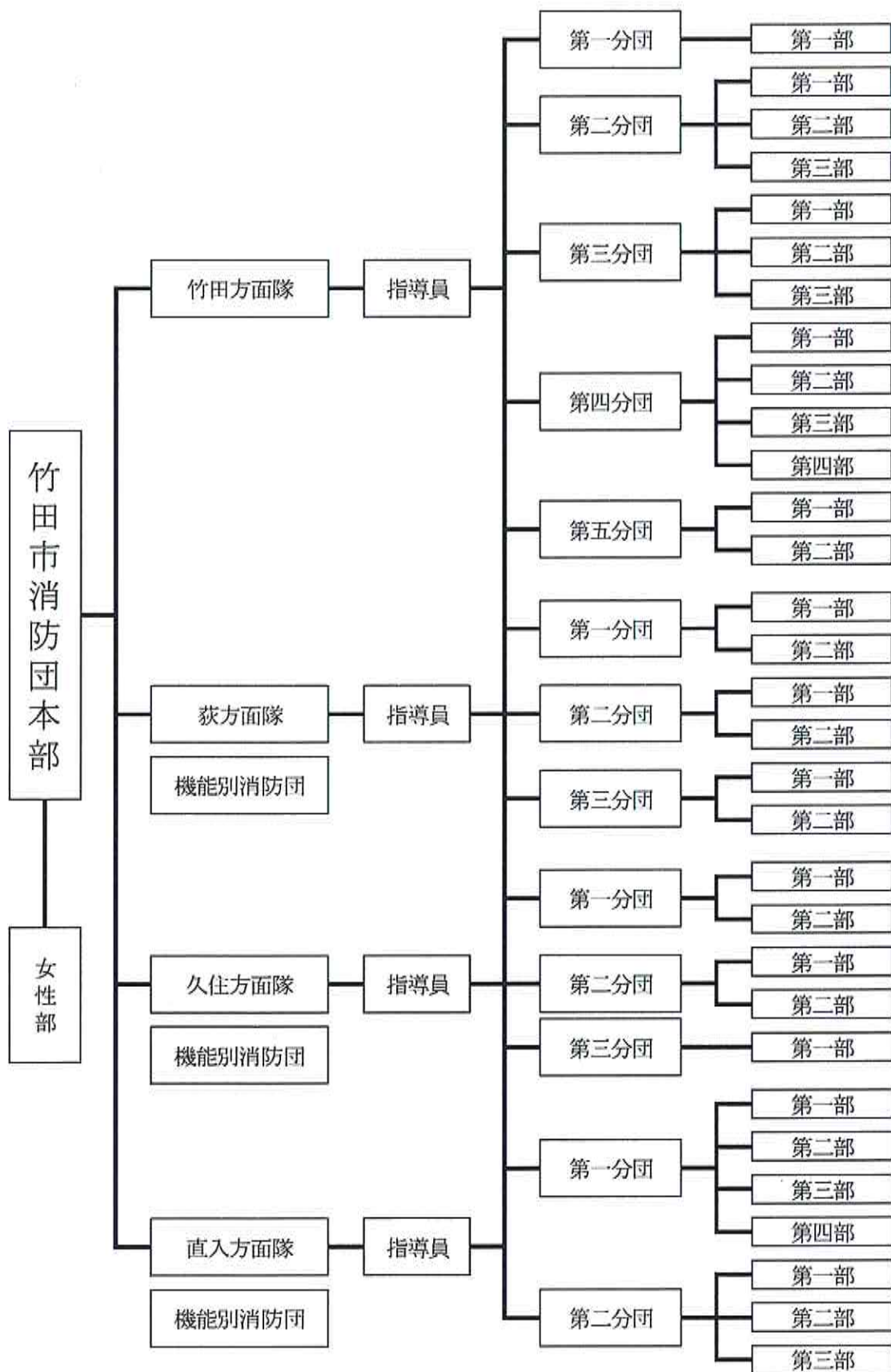
5. 救助概況(前年比較)

性数	事故種別	火 災	交通事 故	水難事 故	自然災 害	機械事 故	建物事 故	ガス酸 欠事故	破裂事 故	その他 事故	計
		出動件数	令和元年		12			2			
令和2年			16	1	1	1				18	37
増減			4	1	1	△1				△1	4
活動件数	令和元年		7			2				13	22
	令和2年		7	1	1	1				15	25
	増減			1	1	△1				2	3
救助人員	令和元年		10			2				13	25
	令和2年		8	1	2	1				15	27
	増減		△2	1	2	△1				2	2

6. 消 防 団



6. (1) 竹田市消防団組織図



6.(2)消防団の構成

(人)

	団長	竹田方面隊	荻方面隊	久住方面隊	直入方面隊	女性部	合計
団長	1						1
副団長 (方面隊長)		1	1	1	1		4
指導員 (副方面隊長)		5	3	3	2		13
分団長		5	3	3	2		13
副分団長		5	3	3	2		13
部長		13	6	5	7	1	32
班長		52	24	20	28	1	125
団員		191	98	143	89	14	535
機能別団員			20	20	20		60
計	1	272	158	198	151	16	796

6. (3) 消防団の消防機械配置状況

	消防ポンプ自動車	小型ポンプ積載車	小型動力ポンプ	その他の車輛	合計
竹田方面隊	1	13			14
荻方面隊	1	5			6
久住方面隊	0	9			9
直入方面隊	1	6			7
団本部		1		1	2
計	3	34	0	1	38

6.(4)消防団の団員報酬

(円)

消防団長	副団長	指導員	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機能別
	方面隊長							
117,000	83,000	61,000	52,000	33,000	29,000	25,000	23,000	10,000

6. (5) 年齢別および階級別消防団員数

令和3年4月1日現在

	小計	団長	副団長	分団長 指導員	副分団長	部長 (女性部長1 名含む)	班長 (女性班長1 名含む)	団員	女性 消防団員
18歳未満	0								
18歳	0								
19歳	3							3	3
20歳	1							1	
21歳	1							1	
22歳	3							3	
23歳	6							6	
24歳	2							2	1
25歳	1							1	
26歳	9							9	
27歳	15						1	14	
28歳	4						1	3	
29歳	14						1	13	
30歳	11						1	10	
31歳	14						2	12	4
32歳	14						3	11	
33歳	23						5	18	1
34歳	17						4	13	
35歳	22						2	20	1
36歳	36					2	8	26	
37歳	43						9	34	1
38歳	27			1		1	4	21	1
39歳	28						8	20	
40歳	16					1	1	14	
41歳	31					1	14	16	
42歳	33			1	1	3	5	23	
43歳	41			1	1	2	10	27	
44歳	36			1	1	1	8	25	1
45歳	32			2	1	5	11	13	1
46歳	34		1	2		4	9	18	1
47歳	26			2			3	21	
48歳	31			1		4	8	18	
49歳	21			1		5		15	
50歳	18			1	1		2	14	
51歳	18			1	5	1		11	
52歳	15			3	1			11	1
53歳	12			1	1		1	9	
54歳	13			2			1	10	
55歳	8					1		7	
56歳	18			1	1			16	
57歳	18		2	2				14	
58歳	15						1	14	
59歳	10			1				9	
60歳	14		1	2			1	10	
61歳以上	42	1				1	1	39	
合計	796	1	4	26	13	32	125	595	16

6. (6) 歴代消防団長・方面隊長一覧表

令和3年4月1日現在

役職	所属	氏名	在任期間
団長	—	吉野 幸秀	平成17年4月1日～平成18年3月31日
	—	馬場 一己	平成18年4月1日～平成19年3月31日
	—	向井 雄二郎	平成19年4月1日～平成20年3月31日
	—	神田 定義	平成20年4月1日～平成21年3月31日
	—	河野 哲	平成21年4月1日～平成23年3月31日
	—	佐藤 和徳	平成23年4月1日～平成24年3月31日
	—	都築 員守	平成24年4月1日～平成27年3月31日
	—	工藤 厚憲	平成27年4月1日～令和2年3月31日
方面隊長	竹田方面隊	河野 哲	平成17年4月1日～平成21年3月31日
		都築 員守	平成21年4月1日～平成24年3月31日
		井野 賢治	平成24年4月1日～平成30年3月31日
		西山 哲彰	平成30年4月1日～現在に至る
	荻方面隊	向井 雄二郎	平成17年4月1日～平成19年3月31日
		倉野 武臣	平成19年4月1日～平成21年3月31日
		瀬井 勇生	平成21年4月1日～平成23年3月31日
		工藤 厚憲	平成23年4月1日～平成27年3月31日
		久良 勇一	平成27年4月1日～平成31年3月31日
		阿南 浩二	平成31年4月1日～令和3年3月31日
		菅 徳寿	令和3年4月1日～現在に至る
	久住方面隊	内田 健一郎	平成17年4月1日～平成19年3月31日
		神田 定義	平成19年4月1日～平成20年3月31日
		渡辺 昭次	平成20年4月1日～平成22年11月30日
		川原 弘幸	平成22年12月1日～平成25年3月31日
		足立 康成	平成25年4月1日～平成26年3月31日
		大塚 義昭	平成26年4月1日～平成27年3月31日
		高城 猛	平成28年4月1日～平成30年3月31日
		浅倉 洋二	平成30年4月1日～現在に至る
	直入方面隊	馬場 一己	平成17年4月1日～平成18年3月31日
		佐藤 和徳	平成18年4月1日～平成23年3月31日
		井上 吉也	平成23年4月1日～平成25年3月31日
		熊谷 光弘	平成25年4月1日～平成27年3月31日
工藤 厚己		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
佐藤 孝誠		平成29年4月1日～令和2年3月31日	
首藤 敬蔵		令和2年4月1日～現在に至る	

6. (7) 消防操法大会足跡

※緒方町並びに朝地町は、市町村合併以前の旧管内の消防団

年度	大分県大会優勝消防団			全国大会出場隊		
	回数	ポンプ車の部	小型ポンプの部	回数	種目	管内出場隊
平成 2年	第16回		朝地町消防団	第12回	小型ポンプ	朝地町消防団
平成 4年	第17回	荻町消防団	緒方町消防団	第13回	ポンプ車	荻町消防団
平成 6年	第18回	緒方町消防団	朝地町消防団	第14回	小型ポンプ	朝地町消防団
平成 8年	第19回			第15回		
平成10年	第20回			第16回		
平成12年	第21回			第17回		
平成14年	第22回	緒方町消防団	朝地町消防団	第18回	小型ポンプ	朝地町消防団
平成16年	第23回			第19回		
平成18年	第24回			第20回		
平成20年	第25回		久住方面隊	第21回		
平成22年	第26回	荻方面隊	久住方面隊	第22回	小型ポンプ	久住方面隊
平成24年	第27回			第23回		
平成26年	第28回		直入方面隊	第24回	小型ポンプ	直入方面隊
平成28年	第29回			第25回		
平成30年	第30回			第26回		

7. 資 料



7. (1) 竹田市長および副市長

役職名	氏名	在職期間
市長	首藤 勝次	平成21年 4月24日～平成25年 4月23日
	首藤 勝次	平成25年 4月24日～平成29年 4月23日
	首藤 勝次	平成29年 4月24日～令和3年 4月23日
	土居 昌弘	令和3年 4月26日～現在に至る
副市長	渡部 英雄	平成21年 5月19日～平成22年 3月31日
	梅木 純	平成22年 4月 1日～平成25年 5月31日
	野田 良輔	平成25年 6月 1日～平成29年 5月31日
	野田 良輔	平成29年 6月 1日～令和3年 5月31日
	藤田 和徳	平成29年 6月 4日～現在に至る

7. (2) 竹田市議会議長および副議長

役職名	氏名	在職期間
議長	荒巻 文夫	平成21年 5月12日～平成23年 1月13日
	加藤 正義	平成23年 1月14日～平成23年 6月 6日
		平成23年 6月 6日～平成25年 4月23日
	中村 憲史	平成25年 5月 8日～平成27年 5月10日
	坂梨 宏之進	平成27年 5月11日～平成29年 4月23日
	日小田 秀之	平成29年 5月10日～令和元年 5月10日
	佐田 啓二	令和元年 5月10日～令和3年 5月10日
渡辺 克己	令和3年 5月11日～現在に至る	
副議長	吉竹 悟	平成21年 5月12日～平成23年 6月 6日
	和田 幸生	平成23年 6月 6日～平成25年 4月23日
	吉竹 悟	平成25年 5月 8日～平成27年 5月10日
	後藤 憲幸	平成27年 5月11日～平成29年 4月23日
	本田 忠	平成29年 4月24日～令和3年 5月10日
	阿部 雅彦	令和3年 5月11日～現在に至る

7. (3) 竹田市消防本部・署 歴代消防長・消防次長・消防署長

役職名	氏 名	在 職 期 間
消防長	阿南 正治	平成21年 4月 1日～平成22年 3月31日
	工藤 克美	平成22年 4月 1日～平成23年 3月31日
	児玉 淳一	平成23年 4月 1日～平成25年 3月31日
	後藤 清	平成25年 4月 1日～平成27年 3月31日
	大塚 義徳	平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日
	釘宮 恒憲	平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日
	工藤 忠孝	平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日
	大塚 正三	平成30年 4月 1日～令和2年3月31日
	志賀 和吉	令和2年 4月 1日～現在に至る
次長	児玉 淳一	平成21年 4月 1日～平成23年 3月31日
	首藤 法文	平成23年 4月 1日～平成24年 3月31日
	後藤 清	平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日
	田北 栄治	平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日
	麻生 章治	平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日
	山村 俊治	平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日
	大塚 正三	平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日
	工藤 敦・大塚 正三	平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日
	志賀 和吉	平成30年 4月 1日～令和2年3月31日
	佐藤 浩和・渡邊 良夫	令和3年 4月 1日～現在に至る
消防署長	吉野 清二	平成21年 4月 1日～平成22年 3月31日
	浅倉 彰一	平成22年 4月 1日～平成23年 3月31日
	那須 充	平成23年 4月 1日～平成24年 3月31日
	田北 栄治	平成24年 4月 1日～平成26年 3月31日
	大塚 義徳	平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日
	山村 俊治	平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日
	工藤 敦	平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日
	志賀 和吉	平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日
	佐藤 浩和	平成30年 4月 1日～現在に至る

